# 建物の復原と荻外荘

設計本部
アドバンストデザイン部
伝統建築グループ
山野敬史

1_荻外荘の概要と講演の振返り

1-1_荻外荘の概要

1-2_講演の振返り

2_建物の復原と荻外荘

2-1_復原に関連する語句の整理

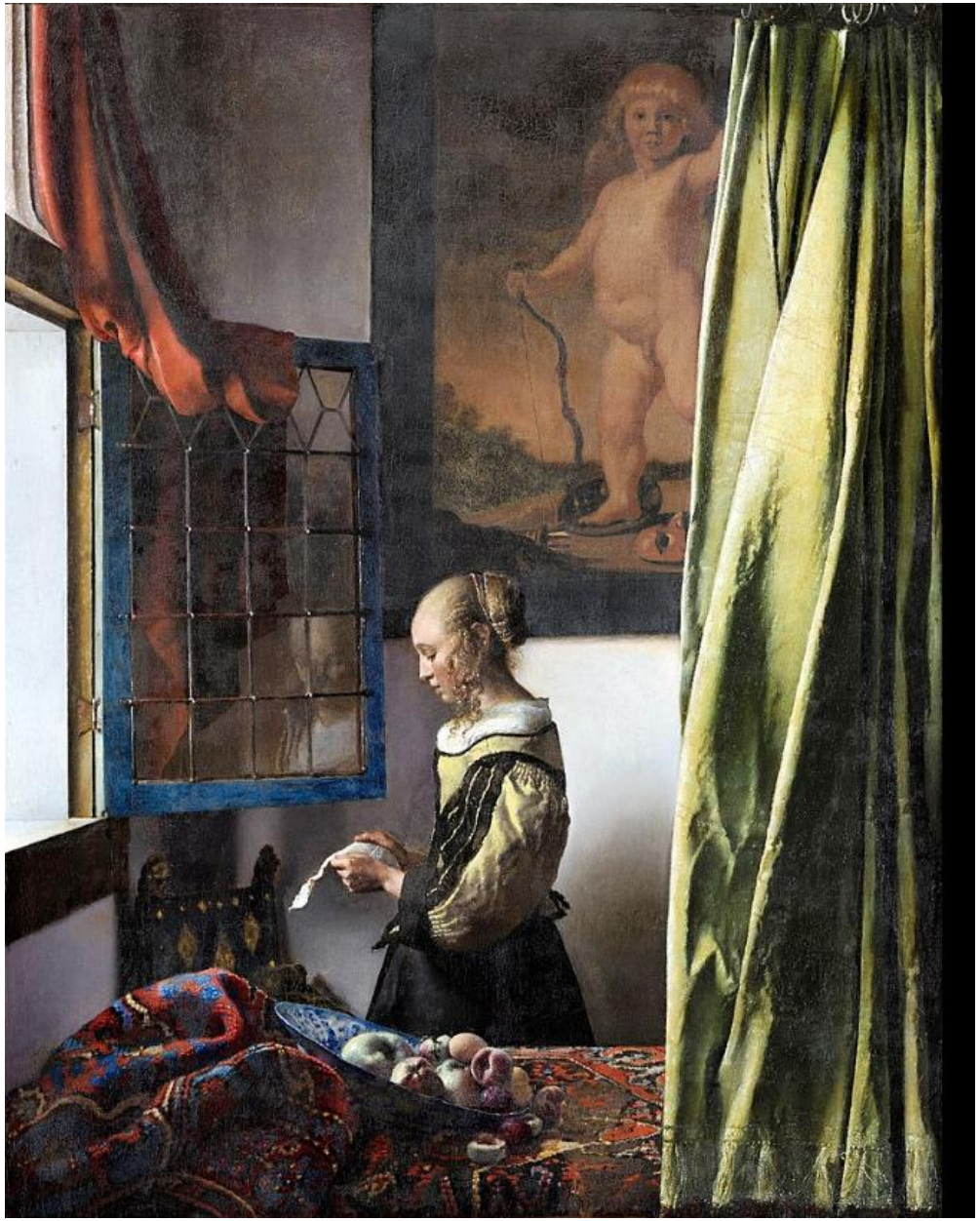
2-2_建物を保存するための制度の歴史と復原

2-3_文化財建造物の復原を伴う修理工事事例

2-4_復原の社会的意義

3_荻外荘に関する新発見

本題の前に、、、



# フェルメール『窓辺で手紙を読む女』修復前後

下記ウィキペディアよりパブリック・ドメインのデータを引用

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AA%93%E8%BE%BA%E3%81%A7%E6%89%8B%E7%B4%99%E3%82%92%E8%AA%AD%E3%82%80%E5%A5%B3

1_荻外荘の概要と講演の振返り

1-1_荻外荘の概要

1-2_講演の振返り

2_建物の復原と荻外荘

2-1_復原に関連する語句の整理

2-2_建物を保存するための制度の歴史と復原

2-3_文化財建造物の復原を伴う修理工事事例

2-4_復原の社会的意義

3_荻外荘に関する新発見

## 1-1_荻外荘の概要

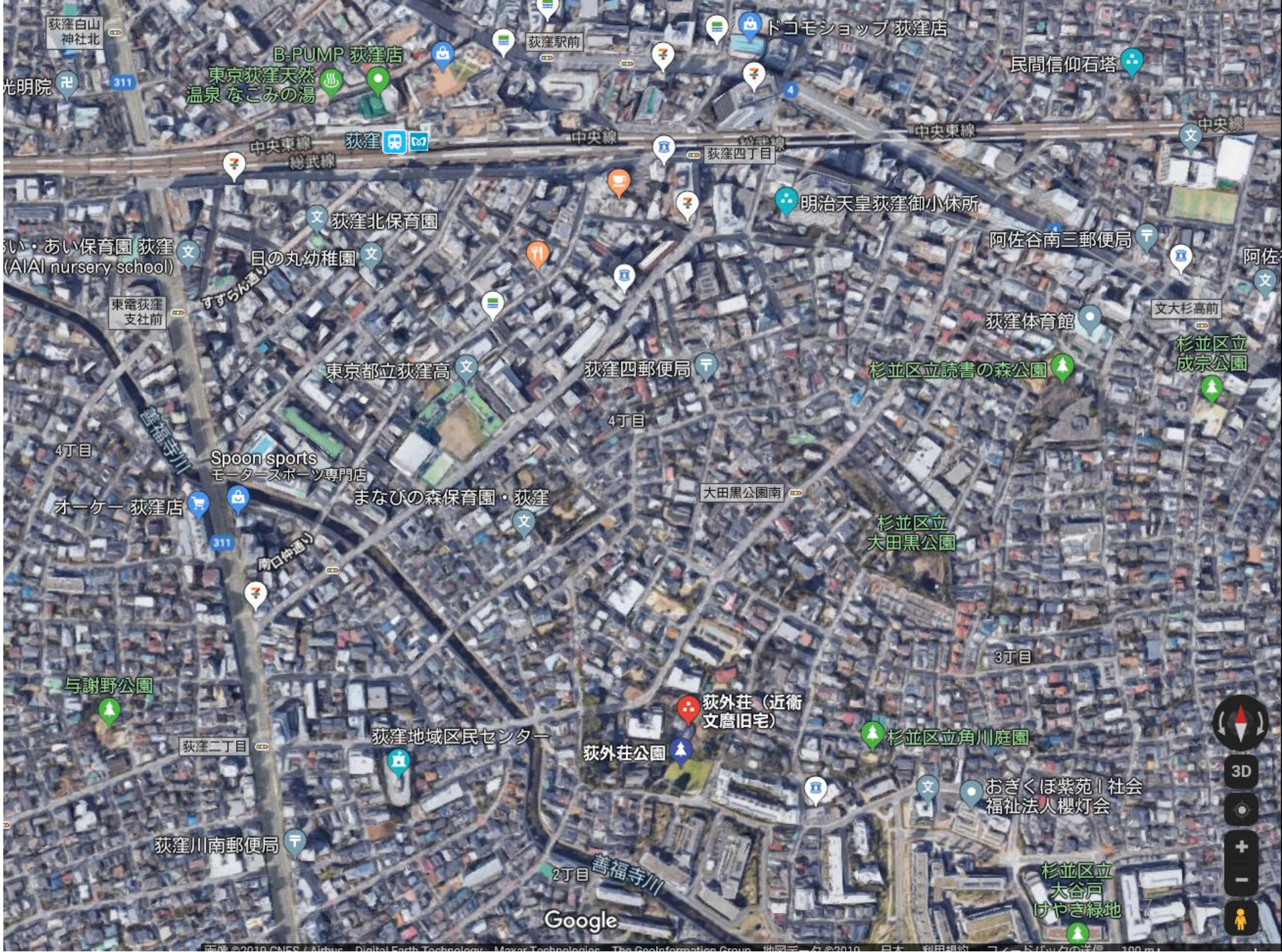
・立地

・建築概要

・歴史的変遷

・スケジュール

# 荻外荘の立地


荻窪白山神社北
光明院
311
B-PUMP 荻窪店
東京荻窪天然温泉 なごみの湯
荻窪駅前
ドコモショップ 荻窪店
民間信仰石塔
中央東線
総武線
荻窪
中央線
荻窪四丁目
明治天皇荻窪御小休所
荻窪北保育園
あい・あい保育園 荻窪 (AIAI nursery school)
日の丸幼稚園
すずらん通り
東電荻窪支社前
阿佐谷南三郵便局
荻窪体育館
文大杉高前
杉並区立成宗公園
東京都立荻窪高
荻窪四郵便局
杉並区立読書の森公園
4丁目
善福寺川
Spoon sports
モータースポーツ専門店
オーケー 荻窪店
まなびの森保育園・荻窪
大田黒公園南
杉並区立大田黒公園
南口仲通り
3丁目
与謝野公園
荻外荘（近衛文麿旧宅）
荻窪地域区民センター
荻窪二丁目
荻外荘公園
杉並区立角川庭園
おぎくぼ紫苑 | 社会福祉法人櫻灯会
荻窪川南郵便局
2丁目
杉並区立大谷戸けやき緑地
Google
3D

# 荻外荘の立地

荻窪白山神社北
1丁目
東京荻窪天然温泉 なごみの湯
B-PUMP 荻窪店
荻窪駅前
ドコモショップ 荻窪店
民間信仰石塔
文化学園大学杉並中高
中央東線
総武線
中央線
荻窪
荻窪四丁目
明治天皇荻窪御小休所
荻窪北保育園
日の丸幼稚園
阿佐谷南三郵便局
(AIAI nursery school)
東電荻窪支社前
荻窪体育館
文大杉高前
すずらん通り
東京都立荻窪高
荻窪四郵便局
杉並区立読書の森公園
杉並区立成宗公園
4丁目
善福寺川
Spoon sports
モータースポーツ専門店
オーケー 荻窪店
桃二小東
大田黒公園南
まなびの森保育園・荻窪
杉並区立大田黒公園
南口仲通り
3丁目
与謝野公園
荻窪二丁目
荻窪地域区民センター前
荻窪地域区民センター
荻外荘（近衛文麿旧宅）
荻外荘公園
杉並区立角川庭園
おぎくぼ紫苑｜社会福祉法人櫻灯会
荻窪川南郵便局
2丁目
杉並区立松渓橋公園
杉並区立大谷戸けやき緑地
Google

# 荻外荘の立地

荻窪白山神社北
1丁目
東京荻窪天然温泉 なごみの湯
B-PUMP 荻窪店
荻窪駅前
ドコモショップ 荻窪店
民間信仰石塔
文化学園大学杉並中高
中央東線
荻窪
中央線
総武線
荻窪四丁目
明治天皇荻窪御小休所
阿佐谷南三郵便局
荻窪体育館
文大杉高前
杉並区立読書の森公園
杉並区立成宗公園
大田黒公園南
まなびの森保育園・荻窪
杉並区立大田黒公園
3丁目
荻外荘（近衛文麿旧宅）
杉並区立角川庭園
おぎくぼ紫苑 | 社会福祉法人櫻灯会
杉並区立松渓橋公園
杉並区立大谷戸けやき緑地
Google

工事前の荻外荘

杉並区教育委員会 荻外荘復原・整備プロジェクトのホームページより

https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/063/544/perspective02.pdf

# 荻外荘復原イメージ

# 荻外荘概要

荻外荘創建時の外観写真

| | | |
|---|---|---|
| 建物名称 | ： | 荻外荘　（創建時の名称は「楓荻荘」「楓荻凹処」） |
| 居住者 | ： | 入澤家（入澤達吉）昭和2年(1927)～昭和12年(1937) |
| | | 近衛家　昭和12年(1937)～平成25年(2013) |
| 設計者 | ： | 伊東忠太　（書斎改修設計者　：長谷部鋭吉　昭和16年） |
| 施工者 | ： | 竹中藤右衛門（竹中工務店） |
| 建築年 | ： | 玄関棟、客間棟、居住棟 |
| 構造 | ： | 木造 |
| 建築面積 | ： | 主屋 386.80m2(111.56坪)、玄関棟/客間 215.66m2(62.25坪) |
| 文化財区分 | ： | 平成28年（2016）史跡指定 |

- 「荻外荘」（命名は西園寺公望）は内閣総理大臣を3度務めた近衛文麿の住まいとして、さらには荻窪会談等歴史的に重要な会談が行われた場所として有名。
- 昭和2年(1927)に建てられた木造住宅で、伊東忠太が設計し、竹中工務店が施工（棟札が現存）
- 最初の所有者は、大正天皇の侍医を務めた入澤達吉で当時の住宅の名称は「楓荻荘」であった。
- 近衛文麿が亡くなったのち、次男の通隆が住宅を相続し、昭和35年(1960)建物の半分が豊島区に移築されていた。
- 令和元年(2019)に「荻外荘公園整備基本計画」が策定され、豊島区に移築されていた建物を荻窪の元の位置に再移築し、昭和12年(1937)から20年(1945)の姿に復原される予定。
- 復原整備設計：株式会社 文化財保存計画協会
  復原整備施工：株式会社 竹中工務店

# 伊東忠太プロフィール

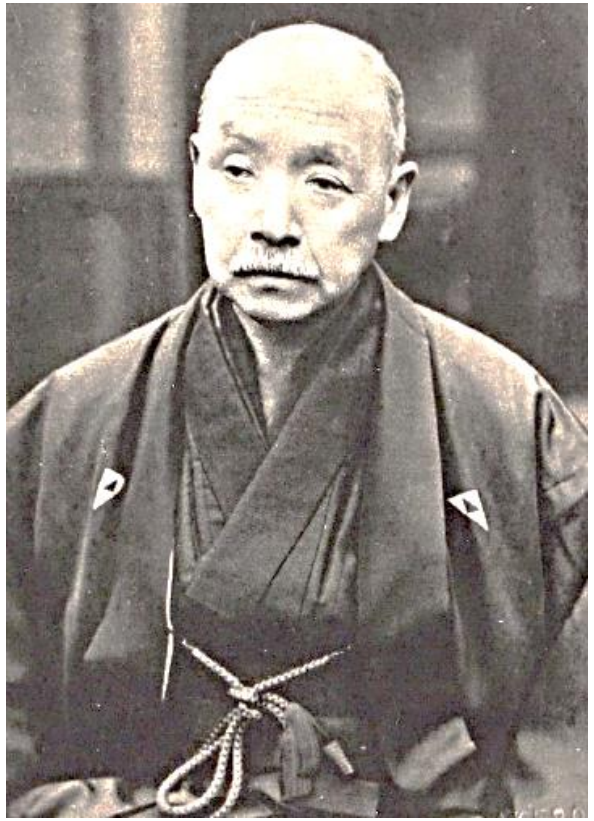
| | |
|---|---|
| 1867 | 山形県米沢市生まれ |
| 1889(22) | 帝国大学工科大学入学 |
| 1892(25) | 同大学卒業。卒業論文『建築哲学』 |
| 1893(26) | 東京美術学校にて「建築装飾術」講義を担当 |
| 1896(29) | 古社寺保存会委員就任 |
| 1898(31) | 学位請求論文『法隆寺建築論』 |
| 1901(34) | 結婚 |
| 1902(35) | アジア・欧米留学 |
| 1905(38) | 帰国後、東京帝国大学教授就任 |
| **1927(60)** | **荻外荘竣工** |
| 1928(61) | 東京帝国大学退職。早稲田大学教授就任 |
| 1943(76) | 文化勲章受章 |
| 1954(87) | 東京都文京区の自宅にて逝去 |

# 竹中工務店プロフィール

第14代竹中藤右衛門

| | |
|---|---|
| 1610 | 初代竹中藤兵衛正高が名古屋で創業 |
| 1899 | 14代竹中藤右衛門が神戸に進出（創立元年） |
| 1909 | 「合名会社竹中工務店」設立 |
| 1911 | 東京・大阪出張所開設 |
| 1918 | 社章の制定 |
| 1920 | 店主 竹中藤右衛門 欧米視察 |
| 1923 | 創立地神戸より大阪に本店を移す |
| 1927 | **荻外荘竣工** |
| 1936 | 社是の制定 |
| 1937 | 株式会社竹中工務店創立 |

# 入澤達吉プロフィール



| | |
|---|---|
| 1865 | 新潟県見附市生まれ |
| 1877(12) | 上京(叔父池田謙斎帝大初代医学部長の勧め) |
| 1883(18) | 帝国大学医学部本科進学 |
| 1890(25) | ドイツ留学（ストラスブール、ベルリン） |
| 1894(29) | 帰国 |
| 1895(30) | 東京帝国大学内科学助教授 |
| 1901(36) | 同大学教授就任 |
| 1921(56) | 医学部長就任 |
| 1924(59) | 大正天皇侍医頭就任 |
| **1927(62)** | 侍医頭辞任、 |
| 1927(62) | **荻外荘竣工** |
| 1938(73) | 逝去 |

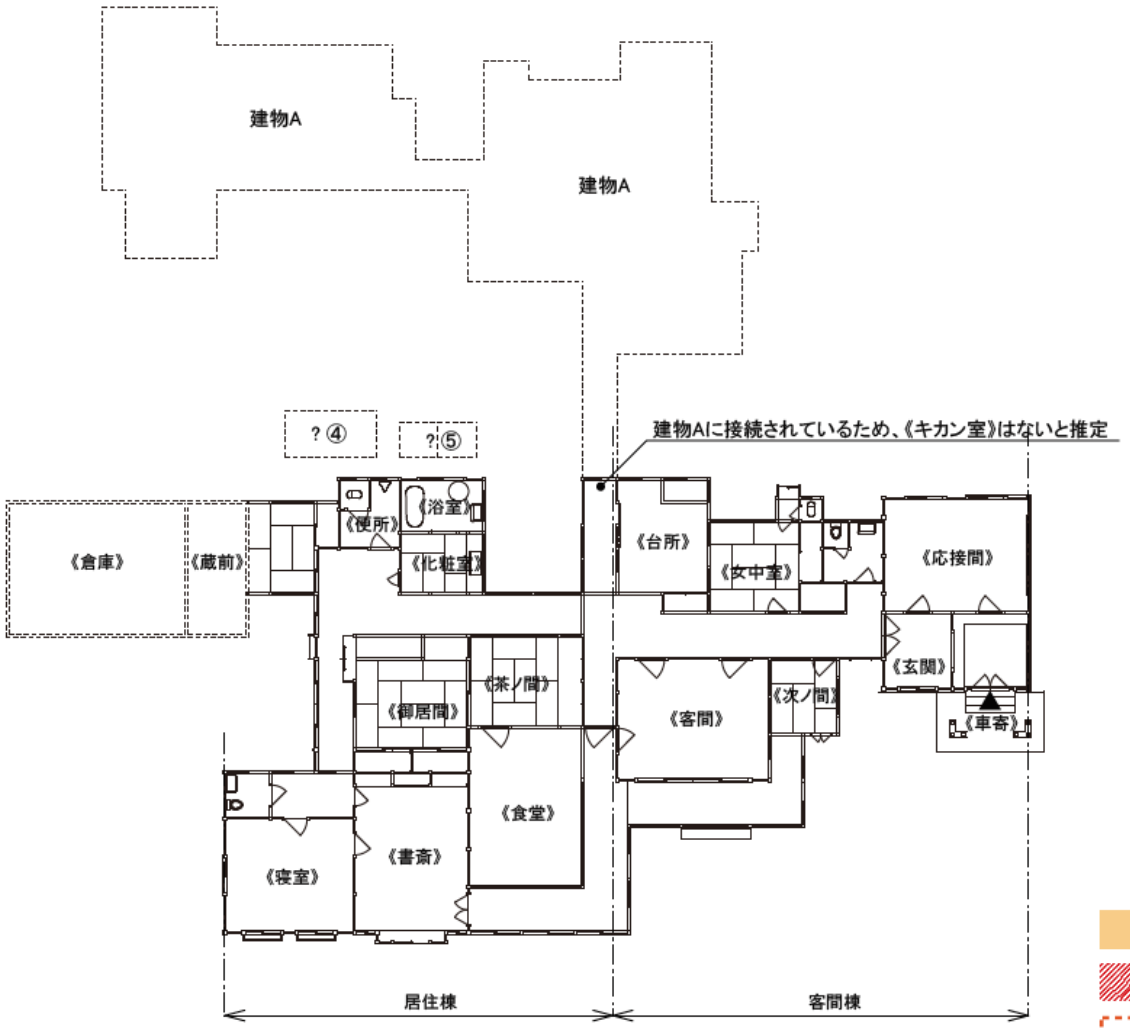
# 荻外荘の歴史的変遷

| 居住者 | 期間 | 和暦 | 西暦 | 建物の履歴 |
|---|---|---|---|---|
| 入澤家 | 第Ⅰ期 | 昭和2年～5年 | 1927～30 | 創建。建物は昭和2年に上棟、竣工。 |
| | 第Ⅱ期 | 昭和5年～12年 | 1930～37 | 北側附属屋を改変。台所を増築。昭和12年近衛家に譲渡。 |
| 近衛文麿 | 第Ⅲ期 | 昭和12年～16年 | 1937～41 | 西側別棟と蔵、次の間を増築。（「荻外荘」と命名。） |
| | | | | 正門を西側に移築。 |
| | 第Ⅳ期 | 昭和16年～20年 | 1941～45 | 昭和18年頃に書斎・寝室・玄関等の改修。 |
| 近衛家 | 第Ⅳ期 | 昭和20年～35年 | 1945～60 | |
| | **第Ⅴ期** | **昭和35年～45年** | **1960～70** | **玄関・客間棟を豊島区に移築。北側に玄関を増築。** |
| | | | | 西側別棟にも玄関を増築。 |
| | 第Ⅵ期 | 昭和45年～ | 1970～ | 近衛家による荻外荘の改修 |

荻外荘保存活用計画に基づき、この年代の状態に復原予定

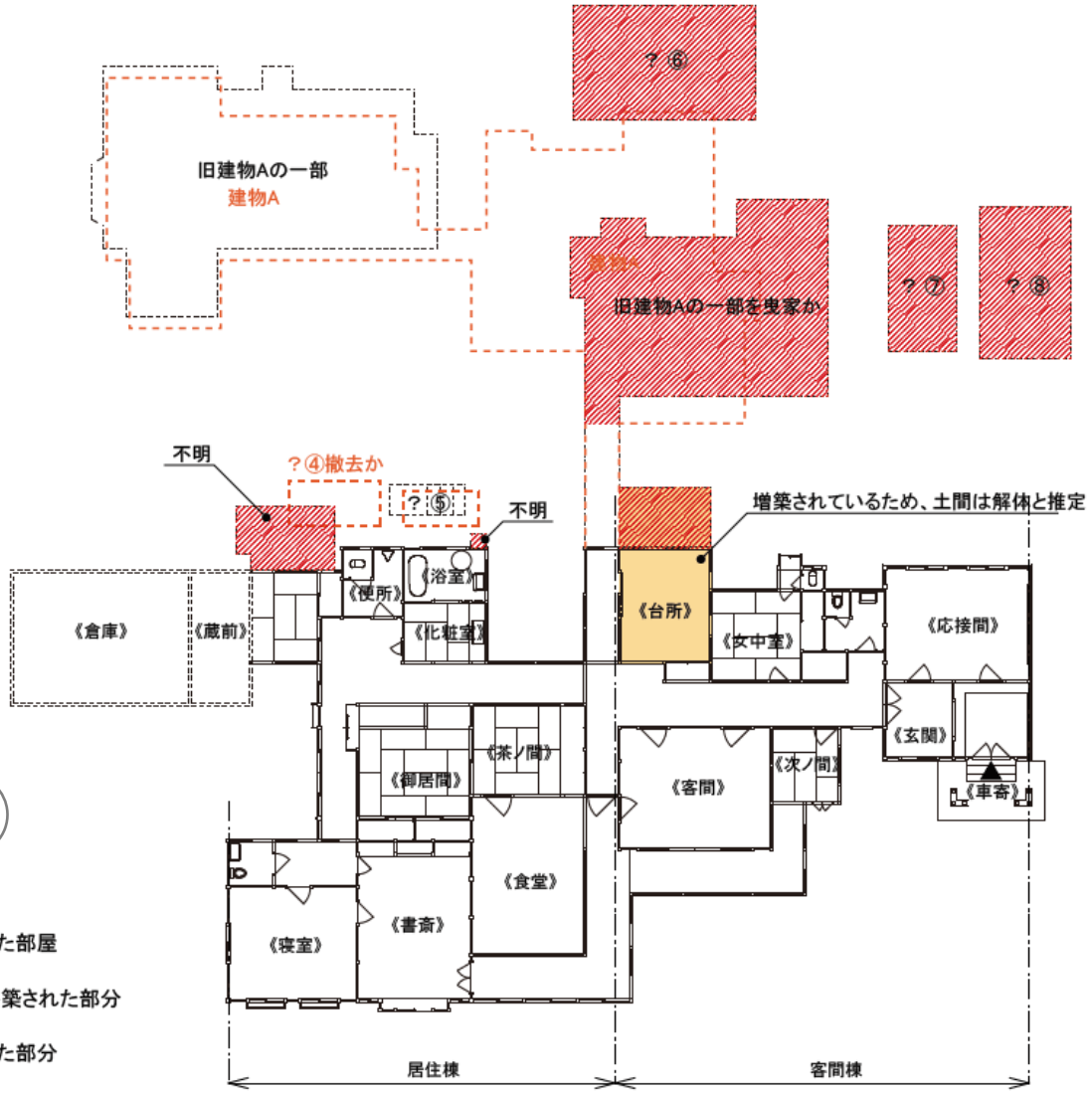
## 第Ⅰ期1927－1930

昭和2年に上棟、竣工




## 第Ⅱ期1930－1937

北側附属屋改変・台所増築




改装された部屋

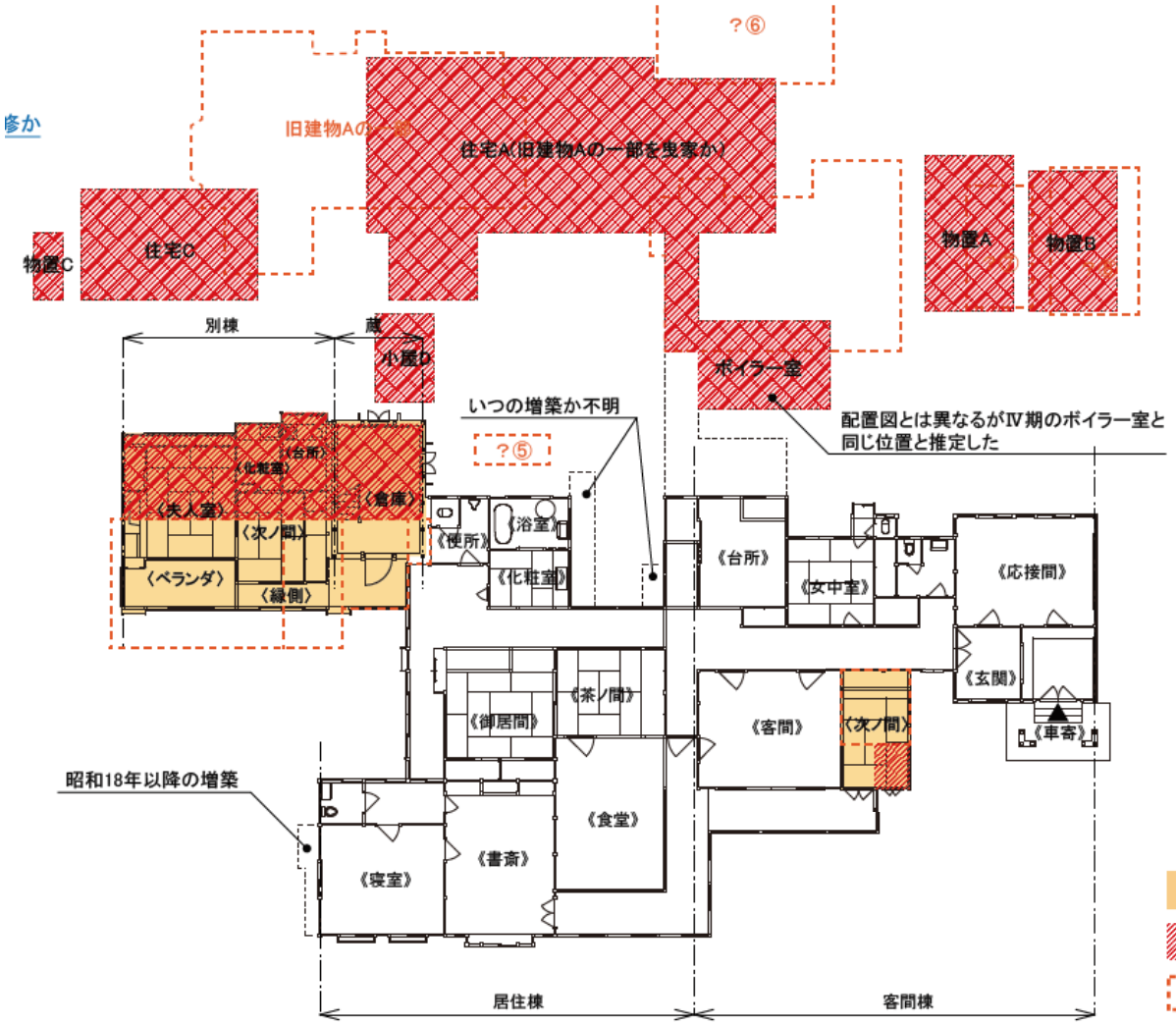
増築・移築された部分

解体された部分

※荻外荘公園整備基本計画に掲載された図版を加工

## 第Ⅲ期1937－1941

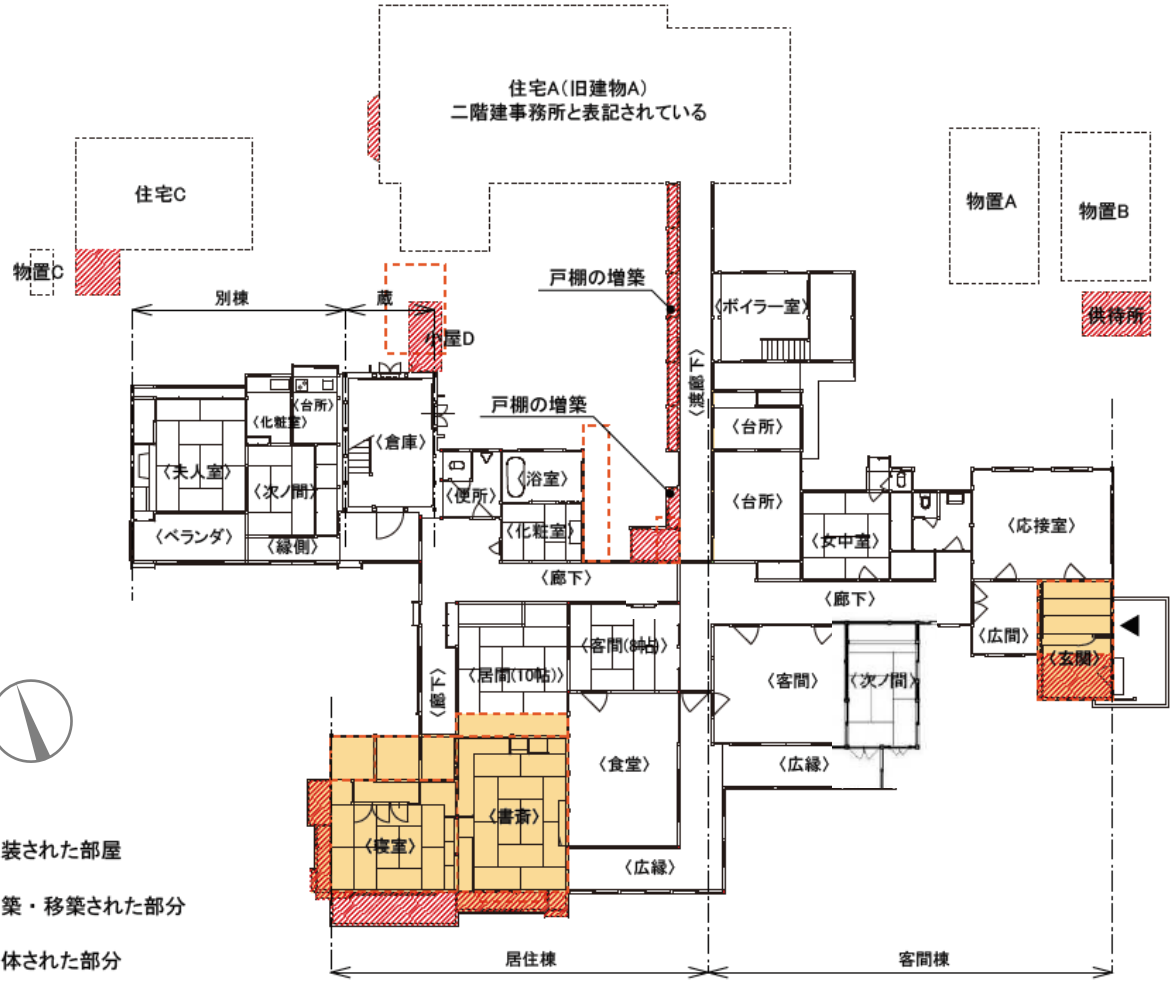
近衛文麿が荻外荘を購入
西側別棟，蔵，次の間の増築




## 第Ⅳ期1943－1945

1945－1960

書斎・寝室を和室に改修
玄関の位置変更




改装された部屋
増築・移築された部分
解体された部分

※　第Ⅲ・Ⅳ期の姿に復原予定

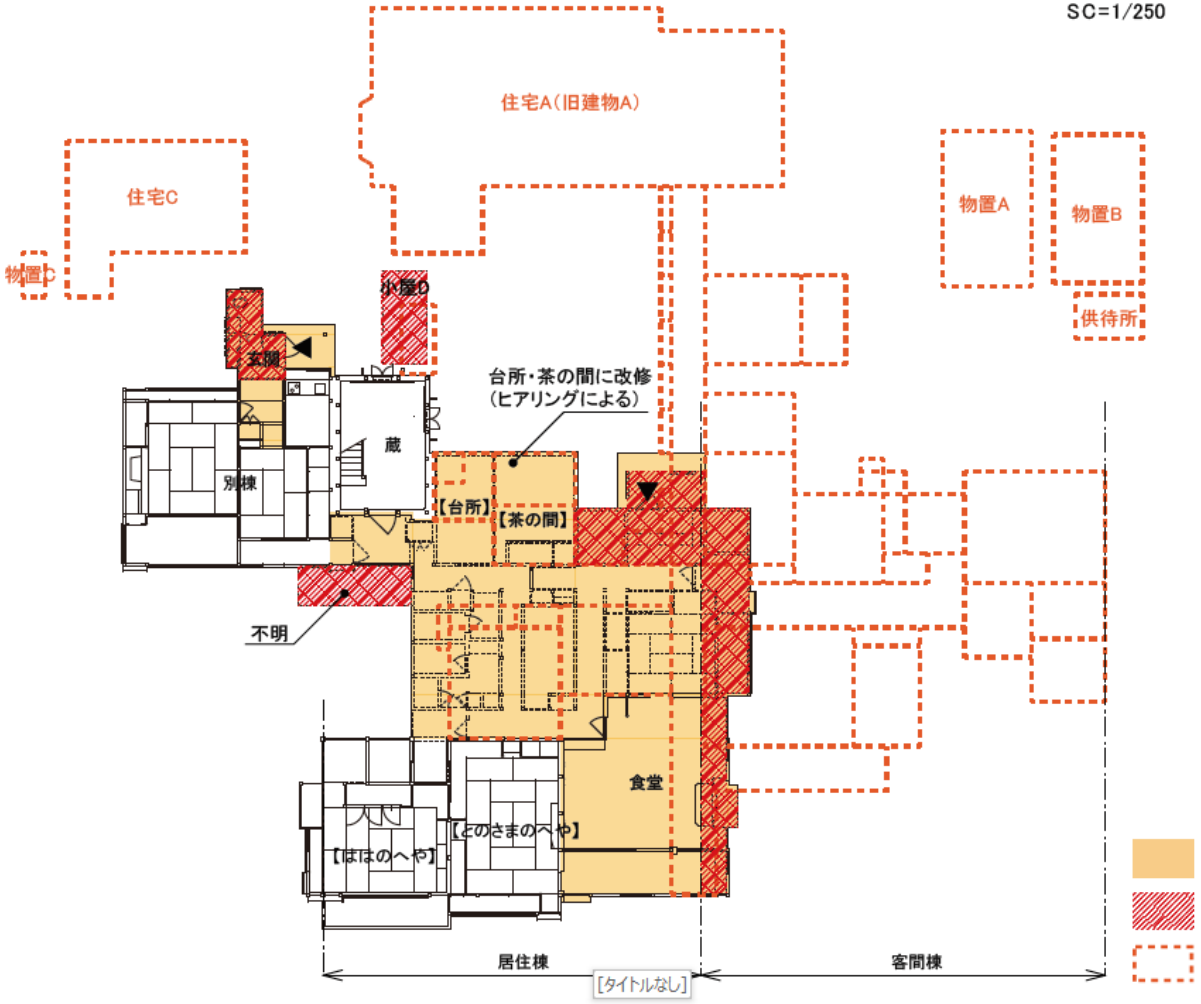
※荻外荘公園整備基本計画に掲載された図版を加工

## 第Ⅴ期1960－1970

客間棟を豊島区へ移築
※天理教東京教務支庁舎に移築

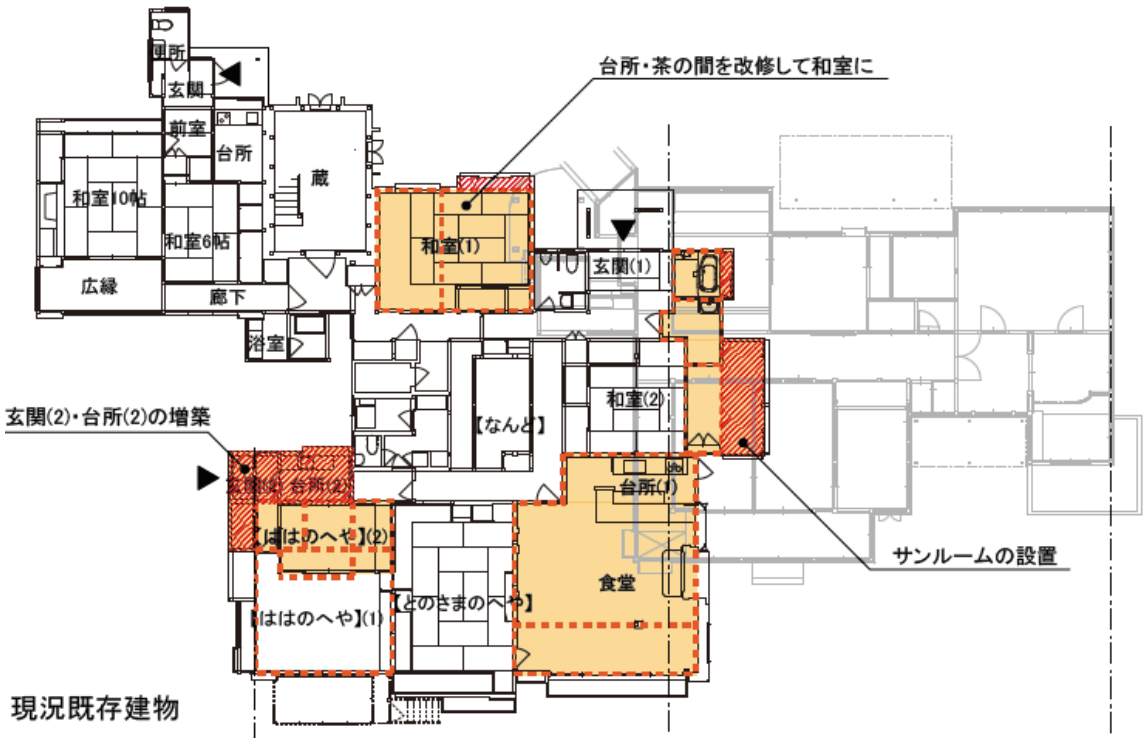
## 第Ⅵ期1970－現在

近衛家による内装改修
台所・和室の改修
サンルームの設置

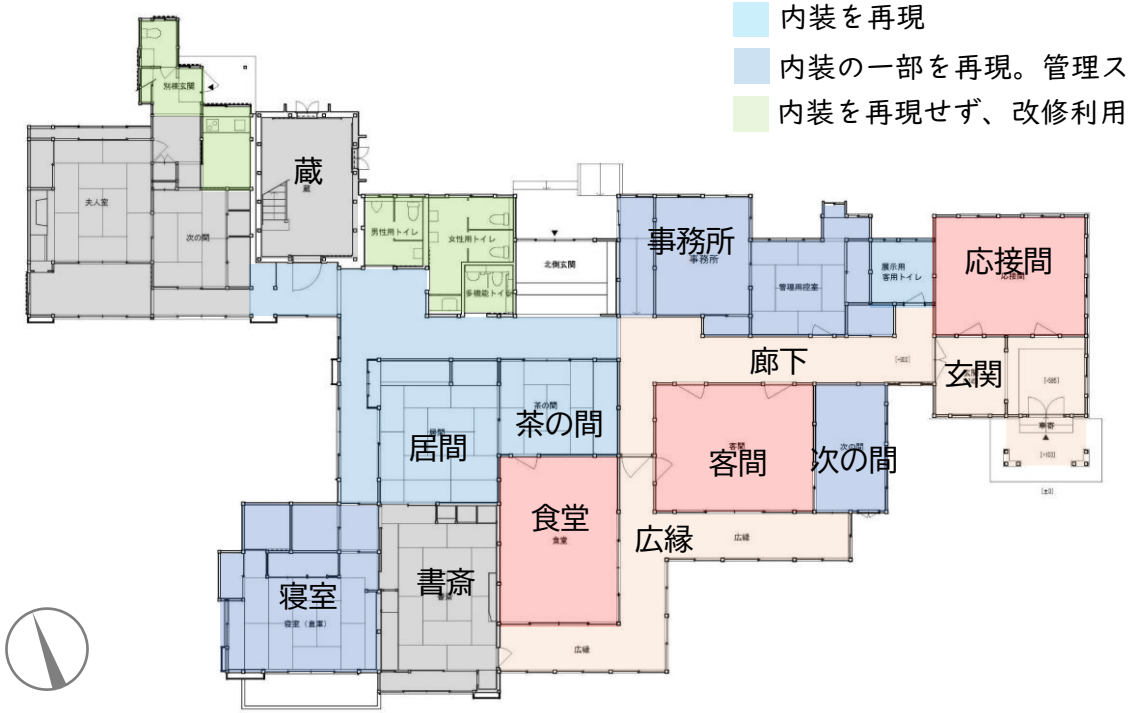


※荻外荘公園整備基本計画に掲載された図版を加工

## 第Ⅵ期1970－現在




## 2024以降(Ⅲ・Ⅳ期に復原予定)




改装された部屋

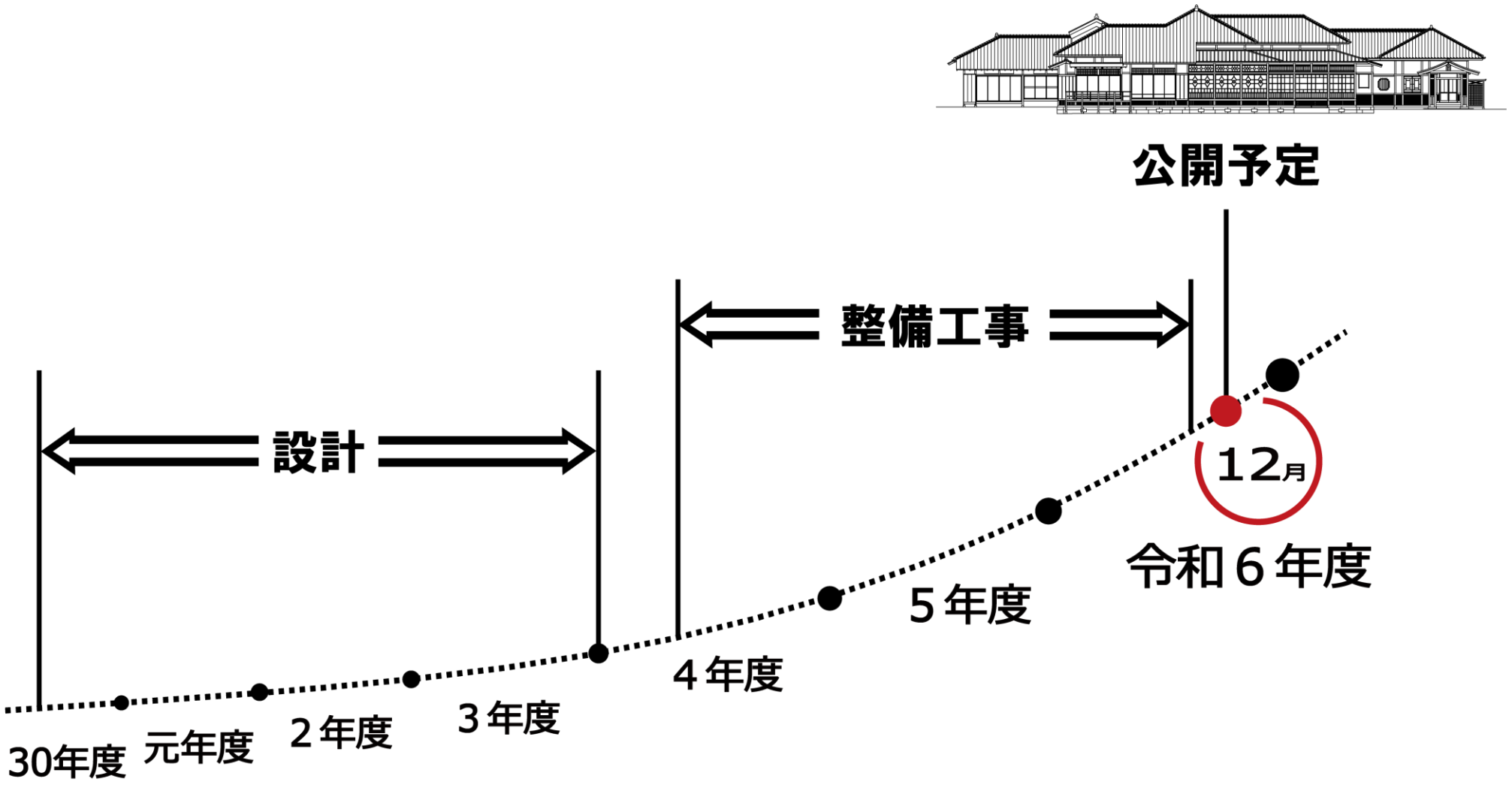
増築・移築された部分

解体された部分

※荻外荘公園整備基本計画に掲載された図版を加工

杉並区教育委員会 荻外荘復原・整備プロジェクト・ホームページより
https://www.city.suginami.tokyo.jp/kyouiku/bunkazai/tekigaiso/fukugen/seibiimage/index.html

# 荻外荘復原・整備工事スケジュール



# 1-2_講演の振り返り

# 荻外荘講演の内容

※以下の青字のパートを本日御説明

2019年度講演(2019/11/23)

## 建築家 伊東忠太と荻外荘

人・建築・場所にまつわる物語

1_伊東忠太と文化財

2_荻外荘の概要と変遷

**3_荻外荘建設に至る背景**

**4_荻外荘の場所的価値**

**5_荻外荘の建築的価値**

6_これからの「荻外荘」

オリジナルの「荻外荘」がもつ（もっていた）価値を紹介

2020年度講演(2020/11/27)

## 暮らしの変化と「荻外荘」

入澤達吉の生活と伊東忠太の住宅観

1_荻外荘の概要と歴史的変遷

2_荻外荘建設の背景

**3_創建時の荻外荘にみる建築的特徴**

**4_暮らしの変化と入澤家**

**5_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」**

荻外荘に見られる所有者（入澤達吉）や設計者（伊東忠太）の住宅観を紹介【新たな事実の発見】

2021年度講演(2021/12/1)

## 建物の移築と荻外荘

0_荻外荘の概要

1_移築とは何か

2_移築の方法

3_移築の年代と遺構

4_移築の可能性と社会的意義

「移築」という歴史ある普遍的行為から地域における文化財の価値を一緒に考える提案

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

# 1-2-1_荻外荘建設に至る背景_①なぜこの土地を入澤達吉は選んだのか？

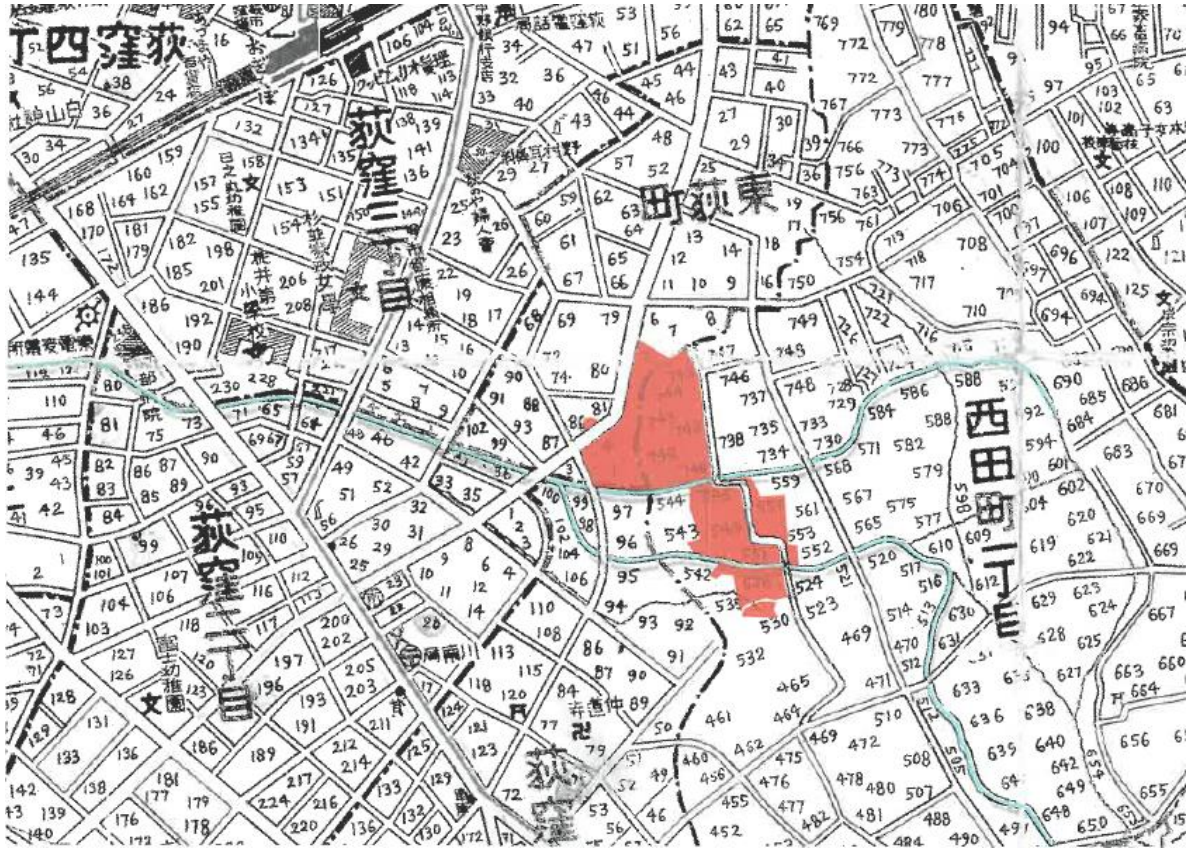



図　1万2千分1「最新杉並区明細地図」昭和12年7月に加筆

文化財シリーズ46　P.94

・中島力造(1858-1918)による紹介

・敷地を気に入っていた

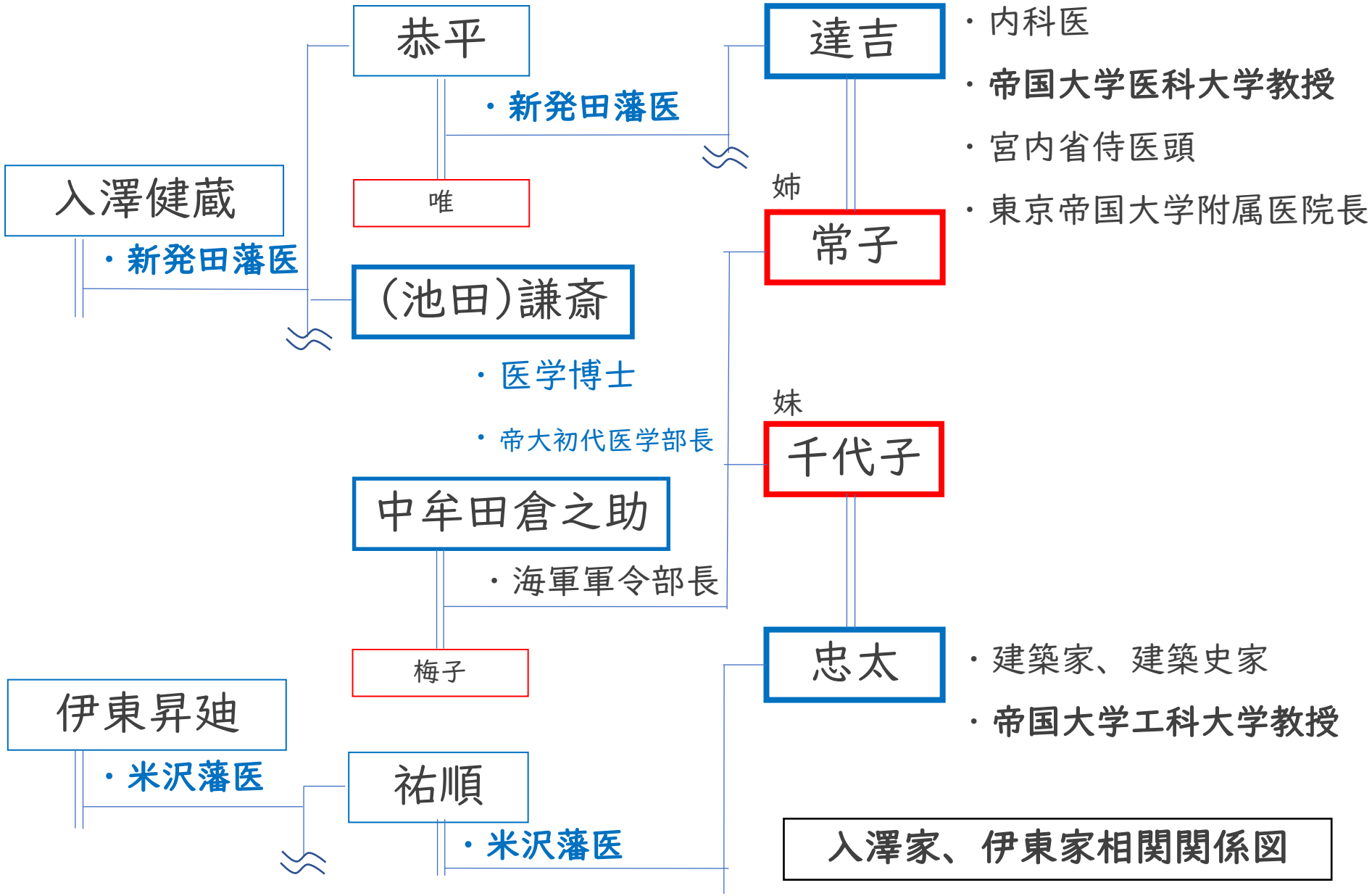
・客人をもてなすため

・国木田独歩「武蔵野」ブーム（1898）

・公衆衛生学による住環境改良（森鷗外等）

中島力造

# 1-2-1_荻外荘建設に至る背景_②なぜ設計が伊東忠太なのか？




入澤家、伊東家相関関係図

# 1-2-1_荻外荘建設に至る背景_③なぜ施工が竹中藤右衛門（竹中工務店）なのか？

西本願寺伝道院/旧真宗信徒生命株式会社社屋

明治45年（1912）竣工

設計：伊東忠太　施工：竹中工務店

一橋大学兼松講堂

昭和2年（1927）竣工

設計：伊東忠太　施工：竹中工務店

管見の限り、その答えになるような史料は見つかっていない。竹中工務店が伊東忠太の設計で最初に施工した建物は西本願寺伝道院で、「荻外荘」の建設と同時期に一橋大学兼松講堂を施工している。

## 1-2-1_なぜ近衛文麿は荻外荘に住んだのか？

・総理大臣の「事務的な多忙さ」と首相官邸と私邸の近さ（同じ永田町）ゆえに、「気分の転換」と「心身の休養」が必要で、「遠方でなしに、しかも変わった環境に」住まいを移したいと思案している近衛文麿にとって荻外荘の「ふるさと」を感じさせる武蔵野の周辺環境や「ひどく自分の興味を惹いた」建築を気に入ったから。

・「（入澤）博士の好意で」近衛文麿は荻外荘を譲り受け、昭和12年12月4日夜「はじめて此処で快眠を貪ったのであった」。

※参考資料：近衛文麿「荻外荘清談（三）」『政界往来』3月号、政界往来社、昭和15年（1940）3月

・入澤達吉は近衛文麿の「長年健康の相談相手だった」

※参考資料：入澤文明「おやじ(22) 入澤達吉 臨床の妙」『朝日ジャーナル』Vol.6, No9、昭和39年(1964)3月

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

# 1-2-2_荻外荘の場所的価値

（１）近衛内閣の政治活動が行われた場所

（２）近衛文麿最期の決断の場所

（３）荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所

※参考資料：『荻外荘保存活用計画書』より

# （１）近衛内閣の政治活動が行われた場所

荻窪会談

（客間にて）

朝日新聞　昭和15年7月19日

荻窪会談の写真については

杉並区ホームページ「荻外荘これまでのあゆみ」の写真を

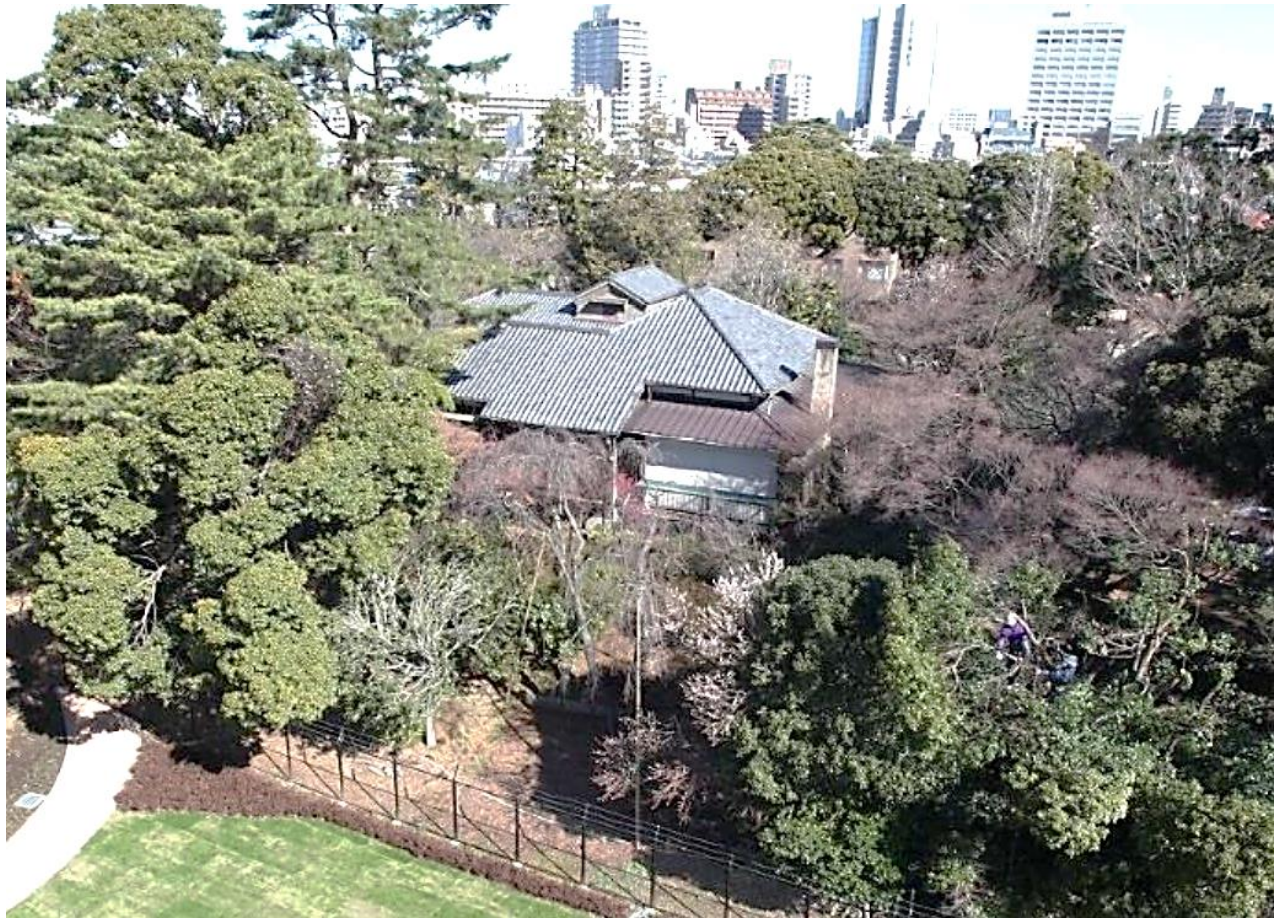
御参照ください

https://www.city.suginami.tokyo.jp/kyouiku/bunkazai/tekigaiso/fukugen/ayumi/index.html

# （２）近衛文麿最期の決断の場所

荻外荘　書斎

# （３）荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所



## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

**3_荻外荘の建築的価値**

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

# 1-2-3_荻外荘の建築的価値

（１）伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値

（２）建築資料的な価値

（３）建物自体が内方している価値

※『荻外荘保存活用計画書』より

# （1）伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値

ポイント：荻外荘は伊東忠太が設計・監督を務めた住宅の唯一の遺構

## 伊東忠太が設計に関与した住宅リスト

| | 竣工年 | （西暦） | 作品名 | 設計関与 | 所在地 | 結果 | 主要関係者 | 現存有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 明治42年 | 1909 | 浅野総一郎邸 | 設計・監督 | 東京市 | 実施 | 主任：佐々木岩次郎 | |
| 2 | 明治42年 | 1909 | 山縣有朋別荘（古希庵） | 設計 | 栃木県矢板市 | 実施 | | 現存。ただし移築。 |
| 3 | 明治43年 | 1910 | 二楽荘 | 設計 | 神戸市六甲山 | 実施 | 主任：鵜飼長三郎 | |
| 4 | 明治44年 | 1911 | 入澤達吉邸 | 設計・監督 | 東京市本郷区 | 実施 | 主任：佐々木岩次郎 | |
| 5 | 大正4年 | 1915 | 内務大臣等官邸 | 設計・監督 | 東京市 | 実施 | 主任：佐野利器 | |
| 6 | 大正8年 | 1919 | 大倉喜八郎小田原別邸 | 図案原案廃棄、別案に就き顧問 | 神奈川県小田原町 | 実施 | | |
| 7 | 大正9年 | 1920 | 久米民之助箱根別邸門 | 設計・監督 | 神奈川県箱根強羅 | 実施 | | |
| 8 | 大正10年 | 1921 | 三井養之助庭内亭子 | 設計 | 東京市 | 延期 | | |
| 9 | 大正13年 | 1924 | 暹羅王宮内宮室及び庭園 | 設計 | バンコク | 中止 | 主任：佐々木岩次郎 | |
| 10 | 大正14年 | 1925 | 入澤達吉葉山別邸 | 一部参画 | 神奈川県葉山町 | 実施 | | |
| 11 | 大正14年 | 1925 | 久米民之助箱根別邸門 | 考案 | 神奈川県箱根強羅 | 中止 | | |
| 12 | 大正14年 | 1925 | 蒲田梅屋敷旧跡保存計画 | 設計 | 東京市 | 一部実施 | | |
| 13 | 昭和2年 | 1927 | 大倉喜八郎京都別邸 | 設計・顧問 | 京都市 | 実施 | | 現存。 |
| 14 | 昭和2年 | 1927 | 入澤達吉邸荻外荘 | 設計・監督 | 東京市 | 実施 | 主任：金子清吉 | 現存。一部移築。 |
| 15 | 昭和3年 | 1928 | 大原孫三郎邸（有隣荘） | 設計指導 | 岡山県倉敷市 | 実施 | 設計：薬師寺主計 | 現存。 |
| 16 | 昭和9-10年 | 1934-35 | 白石元治郎熱海別邸 | 設計・監督 | 静岡県熱海市 | 実施 | | |

『伊東忠太建築作品集』（城南書院、1941）より作成。青字部分は杉並区教育委員会編『国指定史跡 荻外荘』(2017)からの追記

# （２）建築資料的な価値

ポイント：荻外荘は棟札が現存しており、設計者や施工者が明確

現存する棟札

奉棟上大元尊神家門長久栄昌守護所

（ママ）岡　象　女　神

五　帝　龍　神

設計者工学博士　伊　東　忠　太
工事監督建築士　金　子　清　吉
請　負　人　竹中藤右衛門
現　場　員　黒田条次郎

大工棟梁　太田次平
世　話　役　薄井徳治郎

—〔3〕—

祭　式　事

十一月十四日　加島銀行四谷支店開業
同　十八日　鴻池銀行上六支店成工式
同　廿　日　名古屋龜末廣菓子舗上棟式
同　廿一日　入澤邸地鎮祭
同　廿五日　南部伯爵邸同
同　廿六日　王子製紙淀川工場同
十二月二　日　野村銀行大宮出張所同

—〔2〕—

退　店　員

十一月卅　日　黒　阪　一　男　東京支店

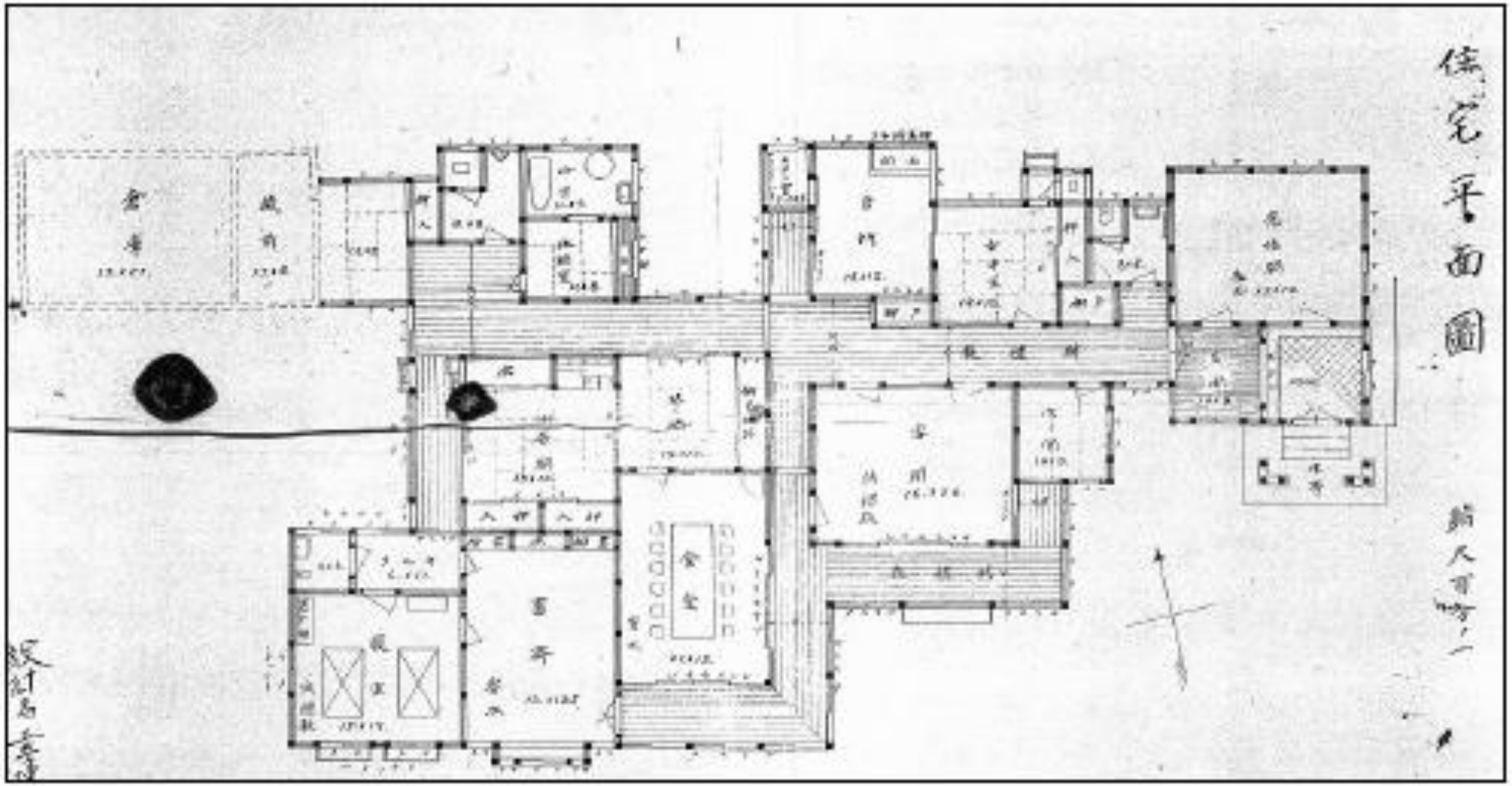
移　動

十一月十六日　松　本　平　三　大阪浪速貿易商會現場へ轉勤
同　十七日　黒田条次郎　東京入澤邸現場へ同
同　廿六日　伊　藤　須　藏　京都出張所へ同
同　廿七日　木　村　喬　野村銀行京都大宮出張所現場へ同
十二月二　日　淺　野　準　一　信友商店濱松支店現場へ同
同　和　田　稜　資　東京支店工務部へ同
同　田　中　明　俊　東京前田侯爵邸現場へ同
同　三　上　藤　之　輔　東京箕田邸現場へ同
同　四　日　小　川　利　喜　藏　東京南部伯爵邸現場へ同
同　森　井　賢　之　輔　同
同　六　日　梅　野　元　彦　東京高橋邸現場へ同
同　七　日　川　島　豊　東京支店見積部へ同
同　大　内　二　男　同　設計部へ同
同　九　日　近　藤　忠　藏　名古屋銀行本店へ同

昭和元年（1926）年の「店報」に記載された入澤邸の記事

# （３）建物自体が内包している価値

ポイント：荻外荘には古図面や古写真が多数残されている




昭和2年(1927)創建時の平面図（杉並区蔵）

『（仮称）荻外荘公園整備基本計画』令和元年5月、p.12

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

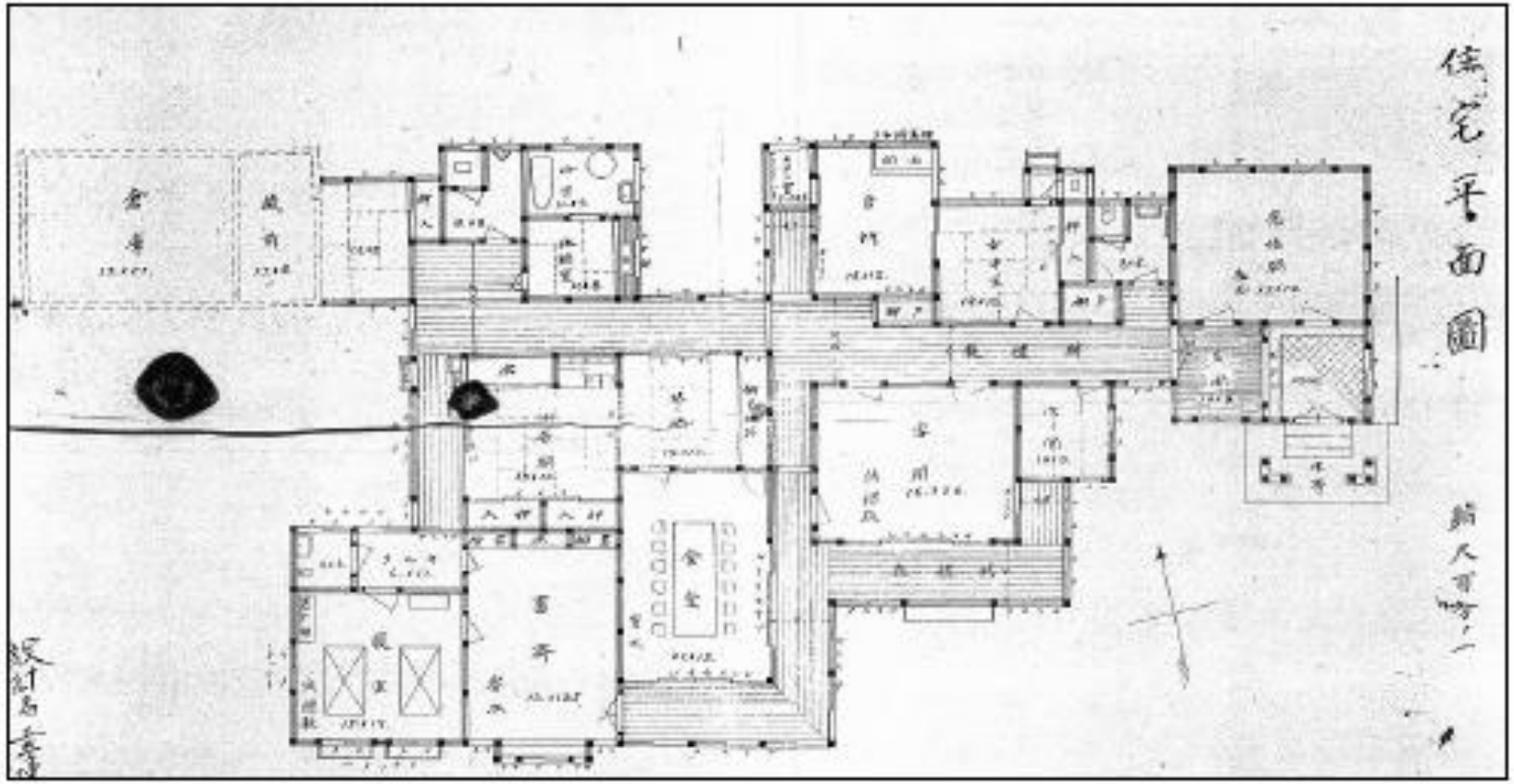
**4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴**

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

# 1-2-4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

ポイント：5つの建築的特徴が伊東忠太の住宅設計思想の手法として読み取れる



昭和2年(1927)創建時の平面図（杉並区蔵）

『（仮称）荻外荘公園整備基本計画』令和元年5月、p.12

① 各部屋が廊下で結ばれている

② 廊下によって部屋の用途毎のまとまりが区画されている（家族用、客用、水廻り）

③ 家族用のスペースと比較して客用スペースが大きい

④ 家族用諸室（寝室、書斎、食堂）と客間が南面の良い場所に配置されている

⑤ 柱が非常に多く、柱間の両端に幅の小さな壁を配している

昭和2年、個人所蔵

# 外観写真

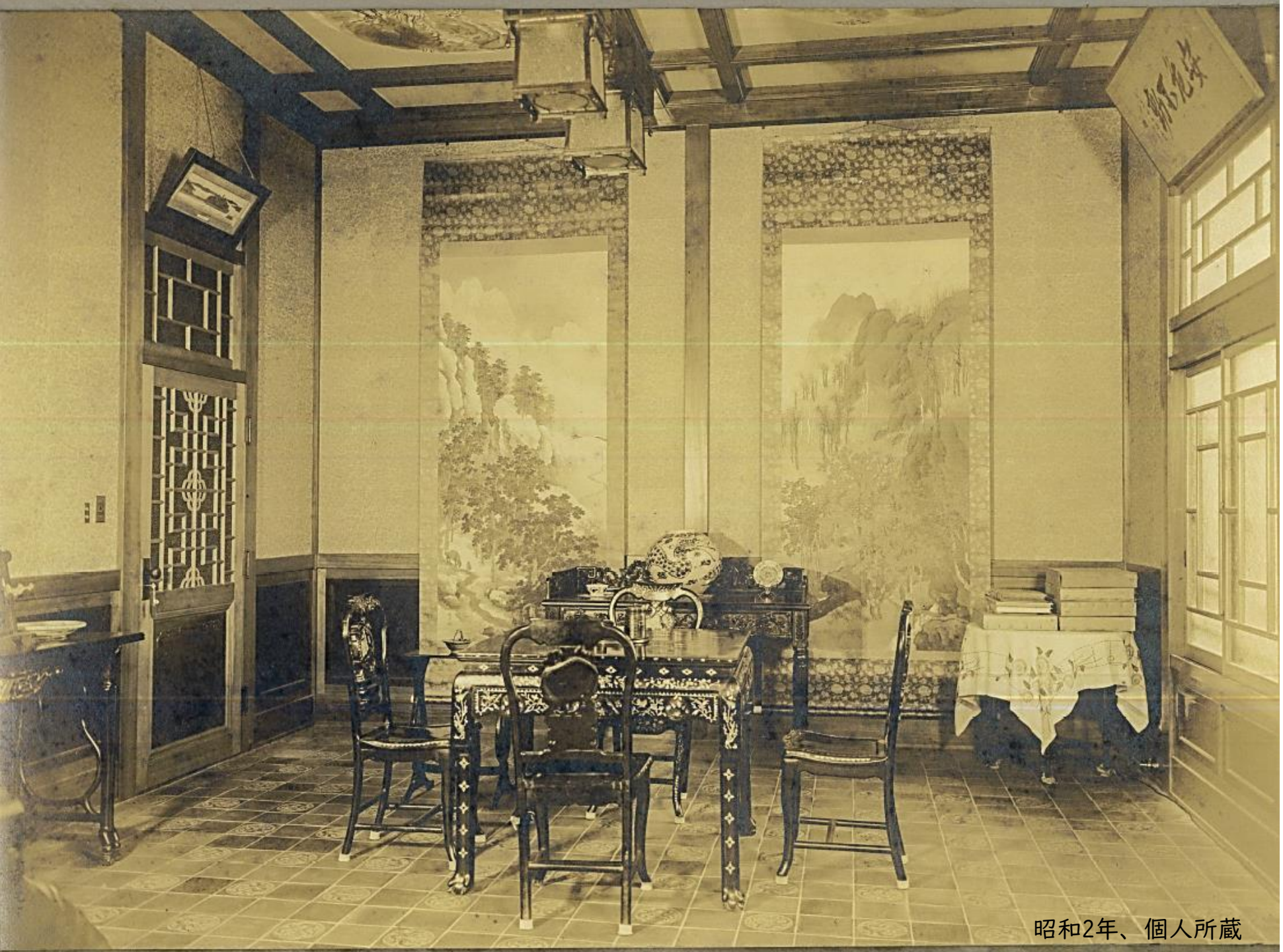
（池南側より）

外観写真

（南東側より）

# 外観写真

（玄関）



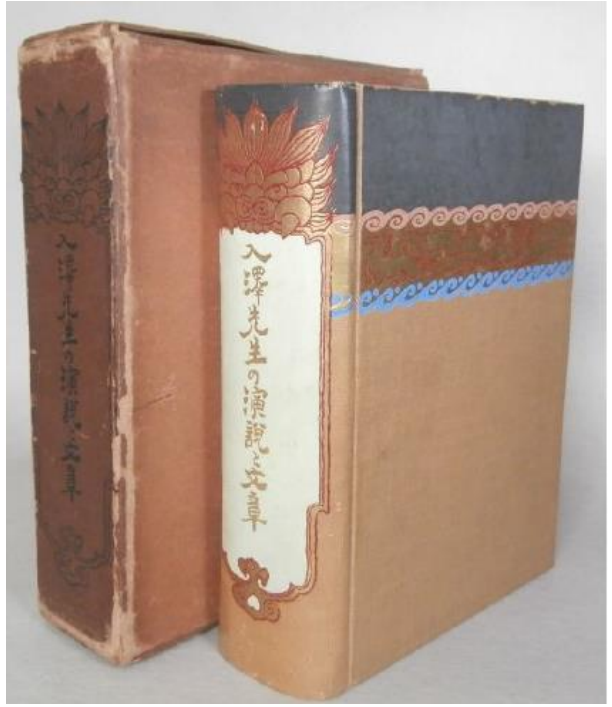

# 内観写真

（応接間）

昭和2年、個人所蔵

# 内観写真

（客間）




『入澤先生の演説と文章』（入澤内科同窓会、昭和7年）の装丁

装丁デザイン：伊東忠太

# 内観写真

（食堂）

# 内観写真

（茶の間）

# 内観写真

（居間）

# 内観写真

（寝室）

内観写真

（書斎）

# 補足_豊島区に移築されていた荻外荘

談話室
（旧応接室）

# 応接間の竣工写真

昭和2年（1927）頃　日本建築学会建築博物館蔵

広間・廊下

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

**5_暮らしの変化と入澤家**

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

# 1-2-5_暮らしの変化と入澤家

ポイント：「生活改善」という社会の課題

大正から昭和初期にかけて都市における中産階級の台頭と共に生活様式を改善しようとする試みが博覧会、展覧会、あるいは団体の活動を通じて多数実施される

**・博覧会を通じた生活改善の提案**

1915 家庭博覧会（大正4年）：**台所の改善（入澤常子）** 子供部屋 **中流住宅（伊東忠太）**

1918 生活改善展覧会（大正7年）：文部省が開催

1922 東京平和記念博覧会（大正11年）:居間型の住宅（生活改善同盟会）

**・団体による啓蒙活動**

1916 住宅改良会（大正5年）：橋口信助（「あめりか屋」開設者）により設立

賛助員：134名（大隈重信等）、顧問14名（武田五一等）

1920 生活改善同盟会（大正9年）：椅子座式、家族本位、衛生・防火、

実用本位の庭園、家具の実用性、共同住宅・田園都市施設の奨励

（内田青蔵『日本の近代住宅』鹿島出版会、2016、p.88）

# I-2-5_暮らしの変化と入澤家

ポイント：博覧会の重要性

## ・家庭博覧会（大正4年）

大正4年5月、6月と国民新聞社が創刊25周年を記念して上野公園不忍池畔にて開催した博覧会。

「家庭問題をテーマとした最初の本格的博覧会」

（内田青蔵『あめりか屋商品住宅』住まいの図書出版局、p.85）

## ・博覧会の役員

名誉会長　：子爵 法学博士 平田東助
名誉副会長：男爵 後藤新平
　　：男爵 法学博士 阪谷芳郎
名誉顧問　：平山成信
　　：男爵 武井守正

（内田青蔵『あめりか屋商品住宅』住まいの図書出版局、p.86）

# 1-2-5_暮らしの変化と入澤家

ポイント：伊東忠太と入澤常子の執筆項目

・家庭博覧会（大正4年）に合わせた出版物『理想の家庭』

理想の家庭　目次


理想の家庭……國民新聞社長　德富猪一郎氏……一
教育……實踐女學校長　下田歌子女史……一三
學校の修業年限と學費……三五
結婚……鳩山春子女史……三七
婚禮の儀式……五二
育兒……東京病院長　東京小兒科病院長　南葛飾病院長　醫學博士　瀨川昌耆氏……五八
育兒の栞……七〇
衛生……東京女醫學校長　東京至誠病院長　吉岡彌生女史……七五
衛生の栞……八六
交際……山脇高等女學校長　山脇房子女史……九六
交際の心得二三……一一一
住宅……東京帝國大學工科大學教授　工學博士　伊東忠太氏……一一三
中流の納戸と裁縫部屋……婦人の友主筆　羽仁もと子女史……一二九
室內の裝飾……日本女子大學校教授　井上秀子女史……一三七
住宅に就ての方位……一五四
室內掃除のこと……一五五
器具の扱ひ方……一五九
庭園……遞信省囑託　長岡安平氏……一六二
庭園に就ての注意二三……一八〇
園藝……東京府立園藝學校長　鈴木武太郎氏……一九一
植木鉢の土に就て……二〇二
園藝十二ヶ月……二〇三
臺所……入澤醫學博士夫人　入澤常子女史……二一四
臺所用器具の扱ひ方……二二四
家庭料理……赤堀割烹教場主　赤堀峯吉氏……二三〇
料理のこといろ〳〵……二四一
家庭經濟……日本女子商業學校監　嘉悅孝子女史……二五六
衣服……私立和洋裁縫女學校長　堀越千代子女史……二六八
衣服に就て……二七四
洗濯……東京女子高等師範學校教授　宮川壽美子女史……二七九
洗濯法いろ〳〵……二九三
汚點拔き法いろ〳〵……二九七
下婢の使ひ方……加藤醫學博士夫人　加藤常子女史……三〇二

## 本書執筆者及講述者

右 長岡安平氏
中 鈴木貫太郎氏
左 入澤常子女史

右 赤堀峰吉氏
中 堀越千代子女史
左 宮川壽美子女史

右 高橋孝子女史
中 加藤常子女史
左 巖谷小波氏

## 本書執筆者及講述者

右 徳富猪一郎氏
中 下田歌子女史
左 嶋山春子女史

右 瀬川昌耆氏
中 吉岡彌生女史
左 山脇房子女史

右 伊東忠太氏
中 [illegible]
左 井上秀子女史

# I-2-5_暮らしの変化と入澤家

・「一畳半」の台所と入澤常子の主張

・「我々の住宅で最も大切なのは、子供の
部屋と台所ではないかと思います。」

・**台所の面積**
日本の中流住宅における台所（4畳半、6畳）
→もっと狭くてよい。

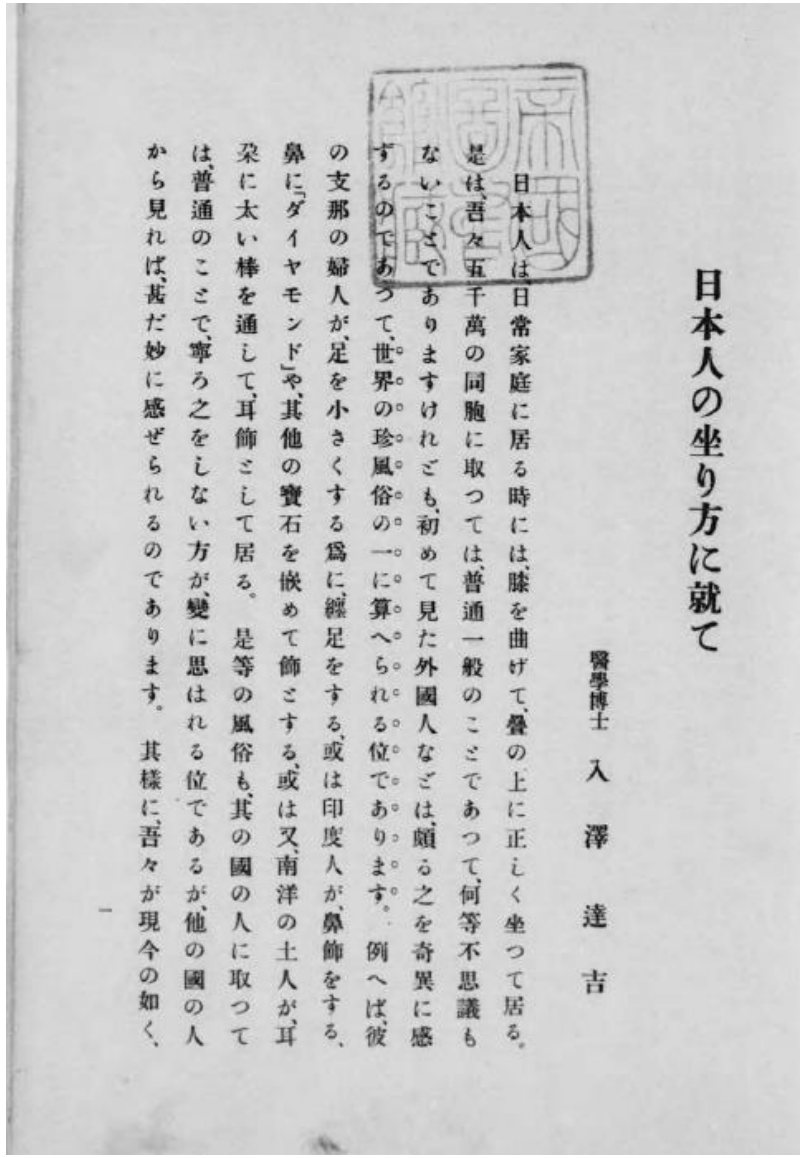
・**台所の設計**
「台所は一家の経済及び衛生において最も
重大な関係」を持っているが「改良」がない

・器物の経済
台所の用具に工夫が必要。
米櫃、布巾掛け、雑巾掛け等

・台所用器具の扱い方

「一畳半の台所」
（「理想の家庭」p.267）

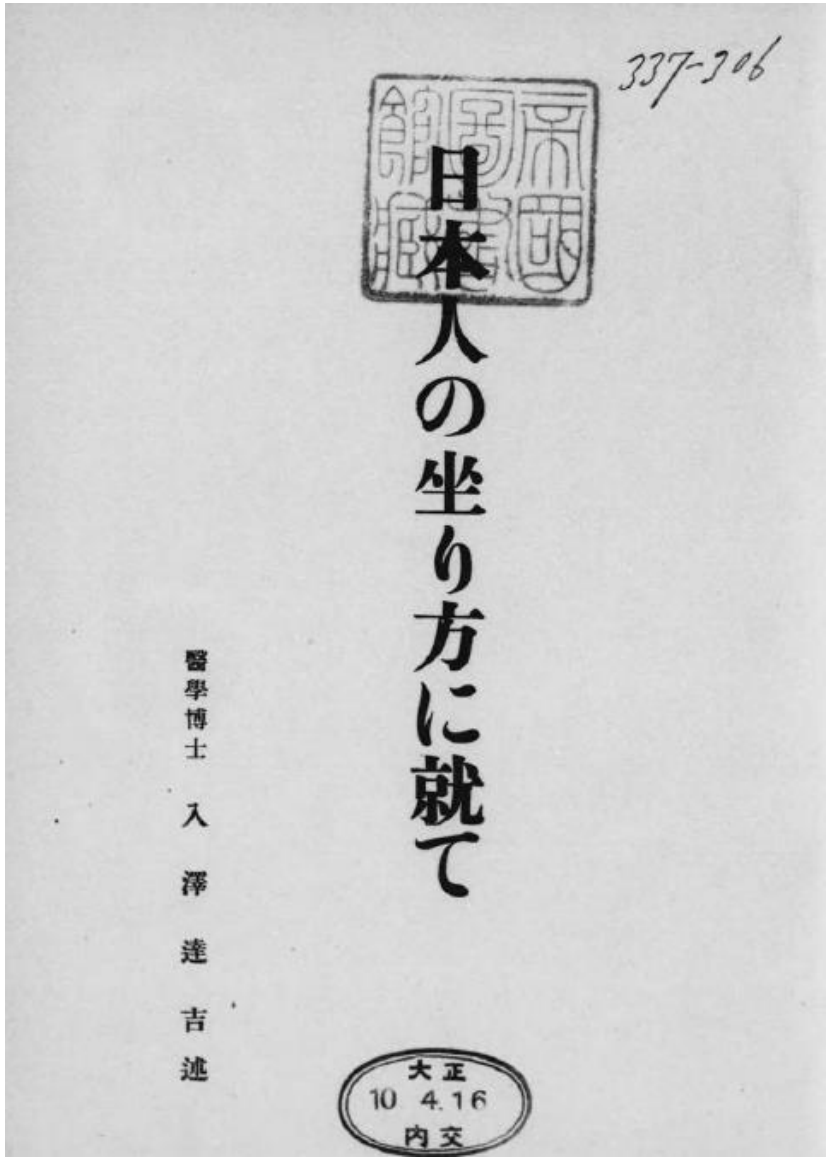
# 1-2-5_暮らしの変化と入澤家



日本人の坐り方に就て

醫學博士　入澤達吉

日本人は日常家庭に居る時には、膝を曲げて、疊の上に正しく坐つて居る。是は、吾々五千萬の同胞に取つては、普通一般のことであつて、何等不思議もないことでありますけれども、初めて見た外國人などは、頗る之を奇異に感ずるのであつて、世界の珍風俗の一に算へられる位であります。例へば、彼の支那の婦人が、足を小さくする爲に、纏足をする、或は印度人が、鼻飾をする、鼻に「ダイヤモンド」や、其他の寶石を嵌めて飾とする、或は又、南洋の土人が、耳朶に太い棒を通して、耳飾として居る。是等の風俗も、其の國の人に取つては、普通のことで、寧ろ之をしない方が、變に思はれる位であるが、他の國の人から見れば、甚だ妙に感ぜられるのであります。其樣に、吾々が現今の如く、



337-306

日本人の坐り方に就て

醫學博士　入澤達吉述

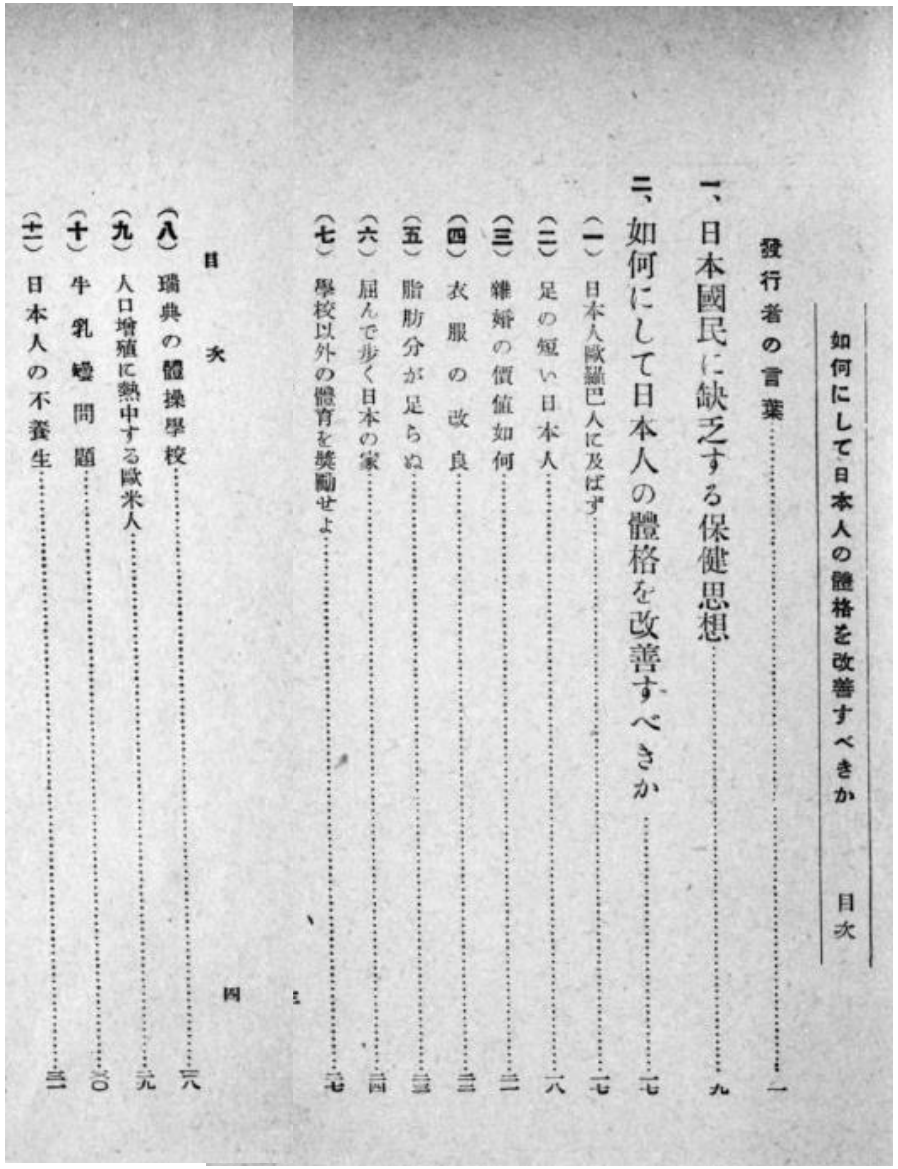
大正 10 4.16 内交

入澤達吉『日本人の坐り方に就て』克誠堂書店、大正10年

（初出：大正8年10月　第41回学術講演会における講演）

・入澤達吉のユニークな研究

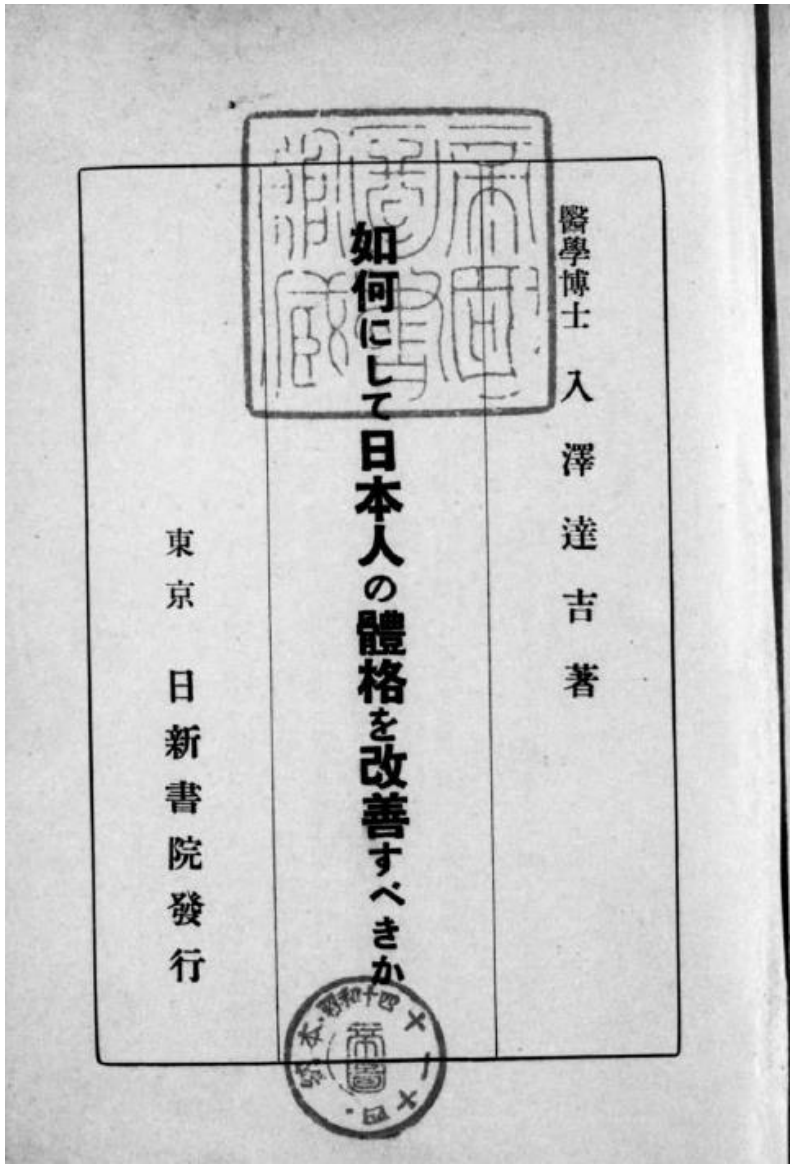
# 1-2-5_暮らしの変化と入澤家



如何にして日本人の體格を改善すべきか　目次

發行者の言葉……一
一、日本國民に缺乏する保健思想……九
二、如何にして日本人の體格を改善すべきか……一七
(一) 日本人歐羅巴人に及ばず……一七
(二) 足の短い日本人……一八
(三) 雜婚の價値如何……二一
(四) 衣服の改良……二三
(五) 脂肪分が足らぬ……二三
(六) 屈んで歩く日本の家……二四
(七) 學校以外の體育を奬勵せよ……二七
(八) 瑞典の體操學校……二八
(九) 人口增殖に熱中する歐米人……二九
(十) 牛乳嬰問題……三〇
(十一) 日本人の不養生……三一

目次　四


・入澤達吉のユニークな研究と家屋の関わり

入澤達吉『如何にして日本人の体格を改善すべきか』日新書院、昭和14年より

（初出：大正2年10月「新日本」第3巻第10号所載）

にすることは、體格改良の上に於て必ず有利なことゝ思ふ。之れには牧畜を盛んにすることゝ、又之れを販賣する方法を善く立てゝやる。さうでなければ大變高い肉を食ふやうになつて、人民が難渋する。魚でもさうである。今日の如き魚市場の制度では、需要者は非常に高い魚を食ふことになる。肉及び魚などを廉く供給することは、人民の健康を増進する上に於ては忽せにすべからざる所の問題である。之れは制度の改良に依つて或る程度迄は出來ることゝ思ふ。今日の市場の制度は甚だ弊害の多いことであると思ふからして、之れを改良することも急務であらうと思ふ。

## （六）屈んで歩く日本の家

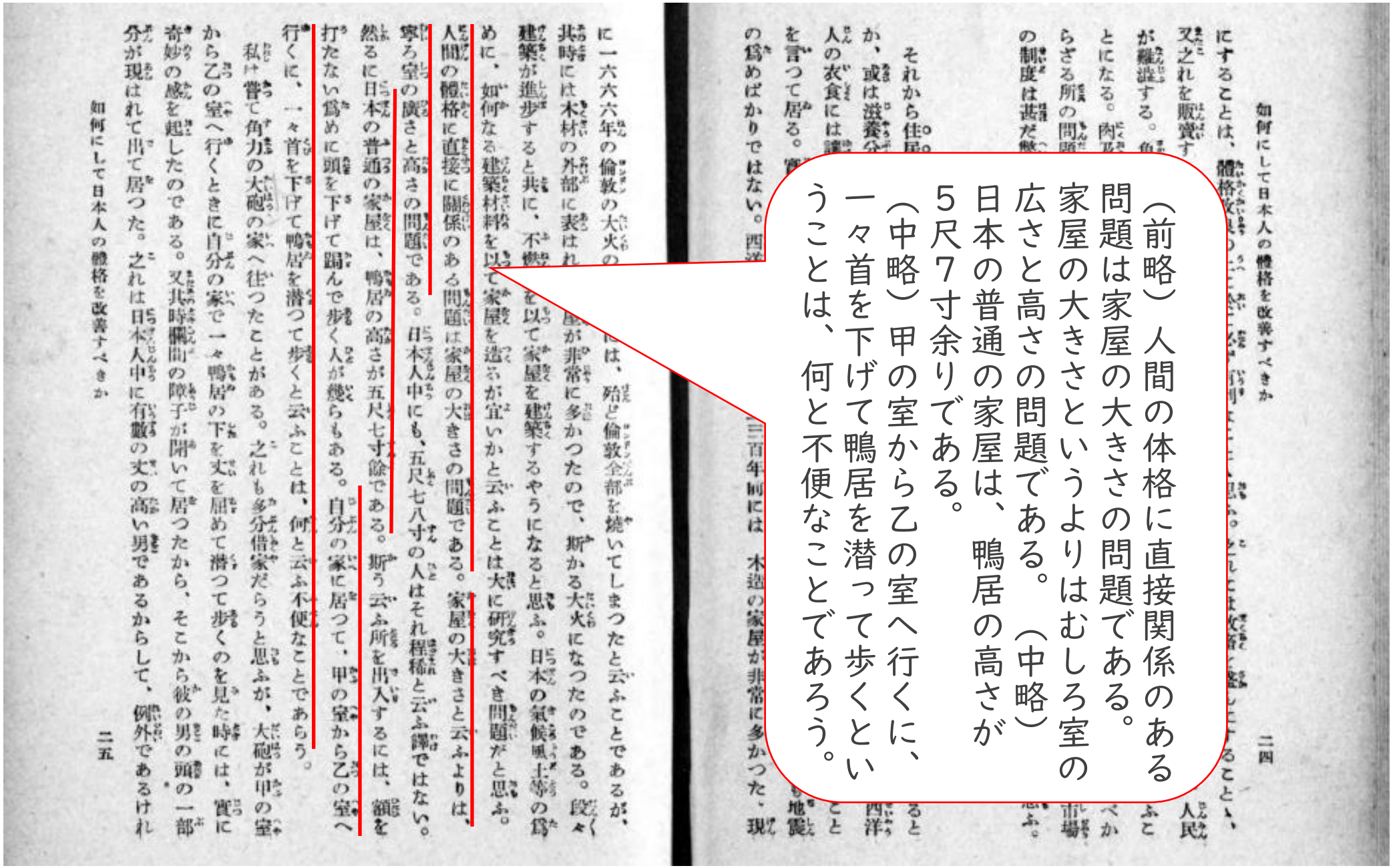
それから住居の事であるが、或人は衣食住の三者を西洋人と比較すると衣も食も便利であるとか、或は滋養分の多少と云ふ點に於ては格別として、金の多く掛つて居る點に於ては、敢て西洋人の衣食には讓らぬが、只住居と云ふ點は之れは甚だしく西洋人に比して劣つて居ると云ふことを言つて居る。實に其通りであると思ふ。日本の家屋が木造であると云ふことは、必ずしも地震の爲めばかりではない。西洋諸國でも今から二三百年前には　木造の家屋が非常に多かつた。現に一六六六年の倫敦の大火の時などには、殆ど倫敦全部を焼いてしまつたと云ふことであるが、其時には木材の外部に表はれた家屋が非常に多かつたので、斯かる大火になつたのである。段々建築が進歩すると共に、不燃質を以て家屋を建築するやうになると思ふ。日本の氣候風土等の爲めに、如何なる建築材料を以て家屋を造ふが宜いかと云ふことは大に研究すべき問題だと思ふ。人間の體格に直接に關係のある問題は家屋の大きさの問題である。家屋の大きさと云ふよりは、寧ろ室の廣さと高さの問題である。日本人中にも、五尺七八寸の人はそれ程稀と云ふ譯ではない。然るに日本の普通の家屋は、鴨居の高さが五尺七寸餘である。斯う云ふ所を出入するには、額を打たない爲めに頭を下げて蹋んで歩く人が幾らもある。自分の家に居つて、甲の室から乙の室へ行くに、一々首を下げて鴨居を潜つて歩くと云ふことは、何と云ふ不便なことであらう。

私は嘗て角力の大砲の家へ往つたことがある。之れも多分借家だらうと思ふが、大砲が甲の室から乙の室へ行くときに自分の家で一々鴨居の下を丈を屈めて潜つて歩くのを見た時には、實に奇妙の感を起したのである。又其時欄間の障子が開いて居つたから、そこから彼の男の頭の一部分が現はれて出て居つた。之れは日本人中に有數の丈の高い男であるからして、例外であるけれ



入澤達吉『如何にして日本人の体格を改善すべきか』日新書院、昭和14年より

（初出：大正2年10月「新日本」第3巻第10号所載）



（前略）人間の体格に直接関係のある問題は家屋の大きさの問題である。家屋の大きさというよりはむしろ室の広さと高さの問題である。（中略）日本の普通の家屋は、鴨居の高さが5尺7寸余りである。（中略）甲の室から乙の室へ行くに、一々首を下げて鴨居を潜って歩くということは、何と不便なことであろう。

入澤達吉『如何にして日本人の体格を改善すべきか』日新書院、昭和14年より

（初出：大正2年10月「新日本」第3巻第10号所載）

ども、此大砲が大學の病院に入院をして居つた時などには、敢て病室の中を首を屈めて歩く必要はなかつた。卽ち西洋造りで戸の高さ、室の高さなどが日本造りに比すると餘程高いからして、首を屈めて歩く必要はない。

日本人の丈の高い人は、皆蹋んで歩く習癖を有つて居る。多く首を垂れて歩く、これは一は家屋の構造と、一は日本流の坐位を取るからであらう。日本流の坐位を取ると云ふことは、日本人の姿勢を甚だ惡くするのである。學校の先生は生徒に向つて猫脊にならないやうに、脊椎が前後若くは左右に彎形をなさないやうに、やかましく注意されるけれども、學校に居る內は兒童は椅子に掛けて居るが、家に歸ると疊の上に日本流に坐つて居るのであるから、どうしても猫脊になることは、免れないことである。又た日本の老人は腰が弓の如く曲つて居る人が多い、是れも西洋には甚だ少ない。日本人が體格を善くしやうとすれば、どうしても家屋の建築を改めなければならぬと思ふ。少なくとも差當り日本の家屋の鴨居の高さを、六尺以上にする必要があると思ふ。卽ち京間の寸法を以てやれば、聊か丈の高い人に向つての救濟策であらうと思ふ。又疊と云ふものも、決して經濟上から德用なものでないのである。粗末なる椅子を用ひたならば、却つて疊を用ひるより廉いかも知れない、それにしては、少し日本の部屋は狹過ぎるのであつて、四疊半などでは迚も椅子に腰掛けることは出來ないと思ふ。實驗動物學の研究の結果では、廣い所に入れて育てた貝類は、狹い所で育てた貝類よりは大きく育つと云ふことである。其貝の體の大きさから比較すれば、一尺四方の水の中で養つても、一間四方の水の中で養つても、同じかりそうなものであるが、實驗上にてはそれが違ふので、廣い所で養つた貝は大きく育ち、狹い所で養つた貝は小さく育つと云ふことを聞いて居る。して見ると、之れは只想像說であるけれども、廣い家屋に住居すれば或は幾分か體格改良に利益があるかも知れぬと思ふ。兎に角日本流に坐ると云ふことは、動作に不便の爲めと、又下半身の血液の運行を害するなどと云ふ點からして、甚だ不利益のものと考へる、若し出來得べくんば、此坐位は漸次廢した方が宜からうと思ふ。之れも俳し永年の國民の習慣であつて隨分實行は困難には相違ない。

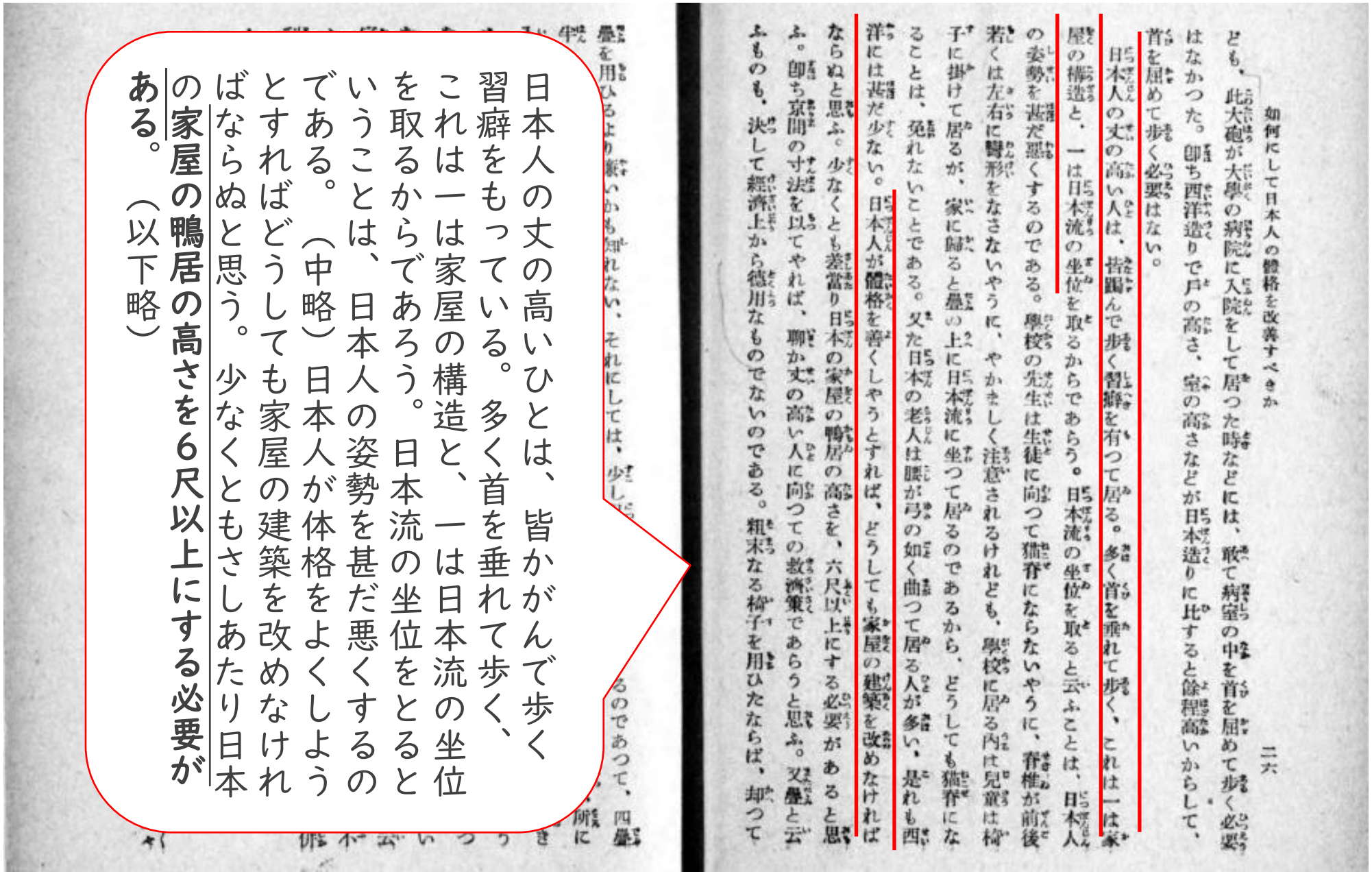
## （七）學校以外の體育を奬勵せよ

體育を盛んにすると云ふことは、非常に體格の改良に効のあることであつて、之れは今更喋々



入澤達吉『如何にして日本人の体格を改善すべきか』日新書院、昭和14年より

（初出：大正2年10月「新日本」第3巻第10号所載）



如何にして日本人の體格を改善すべきか　二六

ども、此大砲が大學の病院に入院をして居つた時などには、敢て病室の中を首を屈めて歩く必要はなかつた。卽ち西洋造りで戸の高さ、室の高さなどが日本造りに比すると餘程高いからして、首を屈めて歩く必要はない。

日本人の丈の高い人は、皆蹣んで歩く習癖を有つて居る。多く首を垂れて歩く、これは一は家屋の構造と、一は日本流の坐位を取るからであらう。日本流の坐位を取ると云ふことは、日本人の姿勢を甚だ惡くするのである。學校の先生は生徒に向つて猫脊にならないやうに、脊椎が前後若くは左右に彎形をなさないやうに、やかましく注意されるけれども、學校に居る内は兒童は椅子に掛けて居るが、家に歸ると疊の上に日本流に坐つて居るのであるから、どうしても猫脊になることは、免れないことである。又た日本の老人は腰が弓の如く曲つて居る人が多い、是れも西洋には甚だ少ない。日本人が體格を善くしやうとすれば、どうしても家屋の建築を改めなければならぬと思ふ。少なくとも差當り日本の家屋の鴨居の高さを、六尺以上にする必要があると思ふ。卽ち京間の寸法を以てやれば、聊か丈の高い人に向つての救濟策であらうと思ふ。又疊と云ふものも、決して經濟上から德用なものでないのである。粗末なる椅子を用ひたならば、却つて

疊を用ひるより新いかも知れない、それにしては、少し

るのであつて、四疊

所に

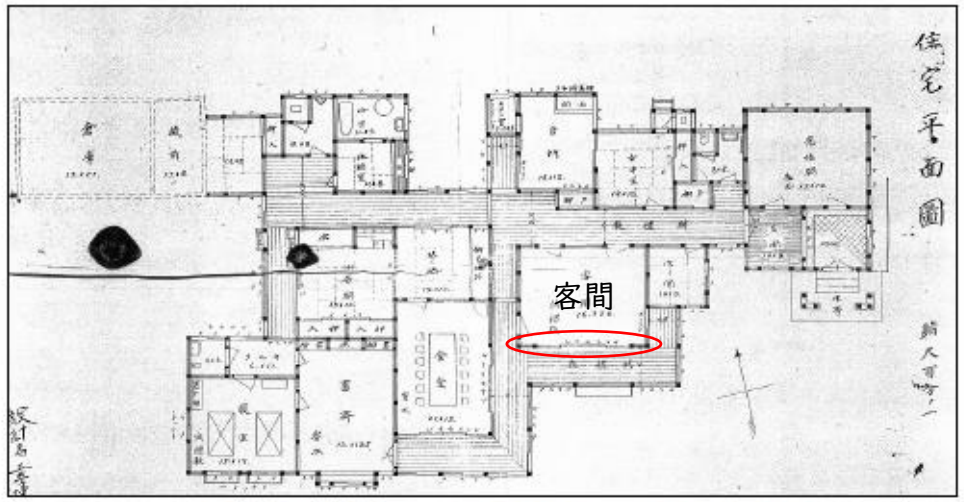
日本人の丈の高いひとは、皆かがんで歩く習癖をもっている。多く首を垂れて歩く、これは一は家屋の構造と、一は日本流の坐位をとるということは、日本人の姿勢を甚だ悪くするのである。（中略）日本人が体格をよくしようとすればどうしても家屋の建築を改めなければならぬと思う。少なくともさしあたり日本の**家屋の鴨居の高さを6尺以上にする必要がある。**（以下略）

入澤達吉『如何にして日本人の体格を改善すべきか』日新書院、昭和14年より

（初出：大正2年10月「新日本」第3巻第10号所載）

# 1-2-5_暮らしの変化と入澤家

・鴨居の高さについて（客間の建具寸法）




建具高さ(H) ＝　1909mm

1尺 ＝ 303mm

よって H ＝ 6.3尺 ＞ 6.0尺

鴨居の高さが6.3尺、つまり6尺以上となっている

## 1-2_講演の振り返り

1_荻外荘建設に至る背景

2_荻外荘の場所的価値

3_荻外荘の建築的価値

4_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

5_暮らしの変化と入澤家

6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

## I-2-6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

・「荻外荘」に見られる伊東忠太の設計手法

① 建築主の生活に合わせたプランニング

② 住み手の動線計画に配慮したプランニング

③ 採光や空気の流通に配慮した立面計画（鴨居の高さや採光窓）

④ 耐震性を考慮した軸組

⑤ 建築主の性格や趣味に配慮した設計計画

## I-2-6_伊東忠太の住宅観と「荻外荘」

・「荻外荘」に見られる伊東忠太の住宅観

① 床敷（椅子式）と畳敷（床式）が混在する折衷的住宅観

② 住み手の「便利」を主とした間取、快適性（採光・通風）、
耐震性（密な柱配置）への配慮

③ 家の外観に主人の趣味や性格が表れているべきである

④ 住宅はあたかも「着物」のようなもの

⑤ 最初から予算を確保し、建具にも「家相当」のものを実現するような
考慮が必要

創建時の応接間の建具

創建時の応接間敷瓦

創建時の建具と摺ガラス

## 保存されている当初の部材（一部）